

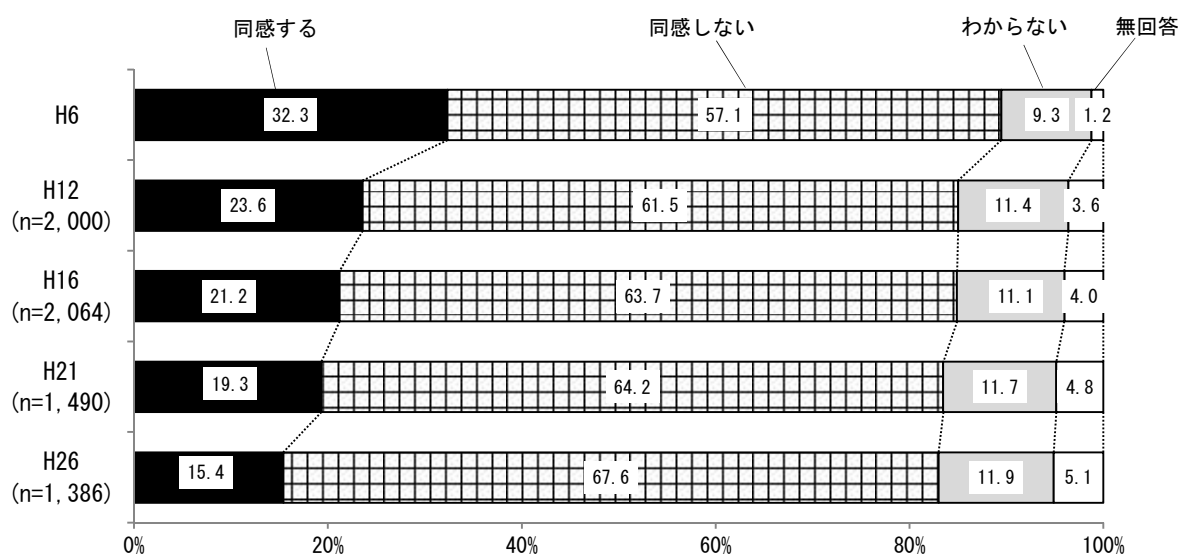
Ⅲ 調査結果

1. 男女の役割分担意識や家庭観について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
(○印は1つ)

【図表 1-1 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識】



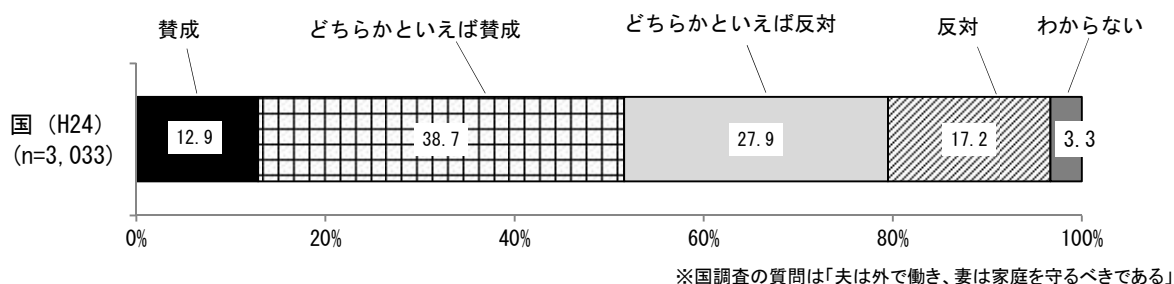
◆ 「同感しない」が6割超を占め、前回よりも上昇

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しない」は67.6%と多数を占めている。「同感する」は15.4%とH6年調査の約2分の1に低下している。

「同感しない」は調査年ごとに上昇傾向にあり、H6年調査と比べると、10.5ポイント上昇している。

国調査（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）と比べると、「同感する」が低くなっている。

【図表 1-2 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（国調査の結果）】



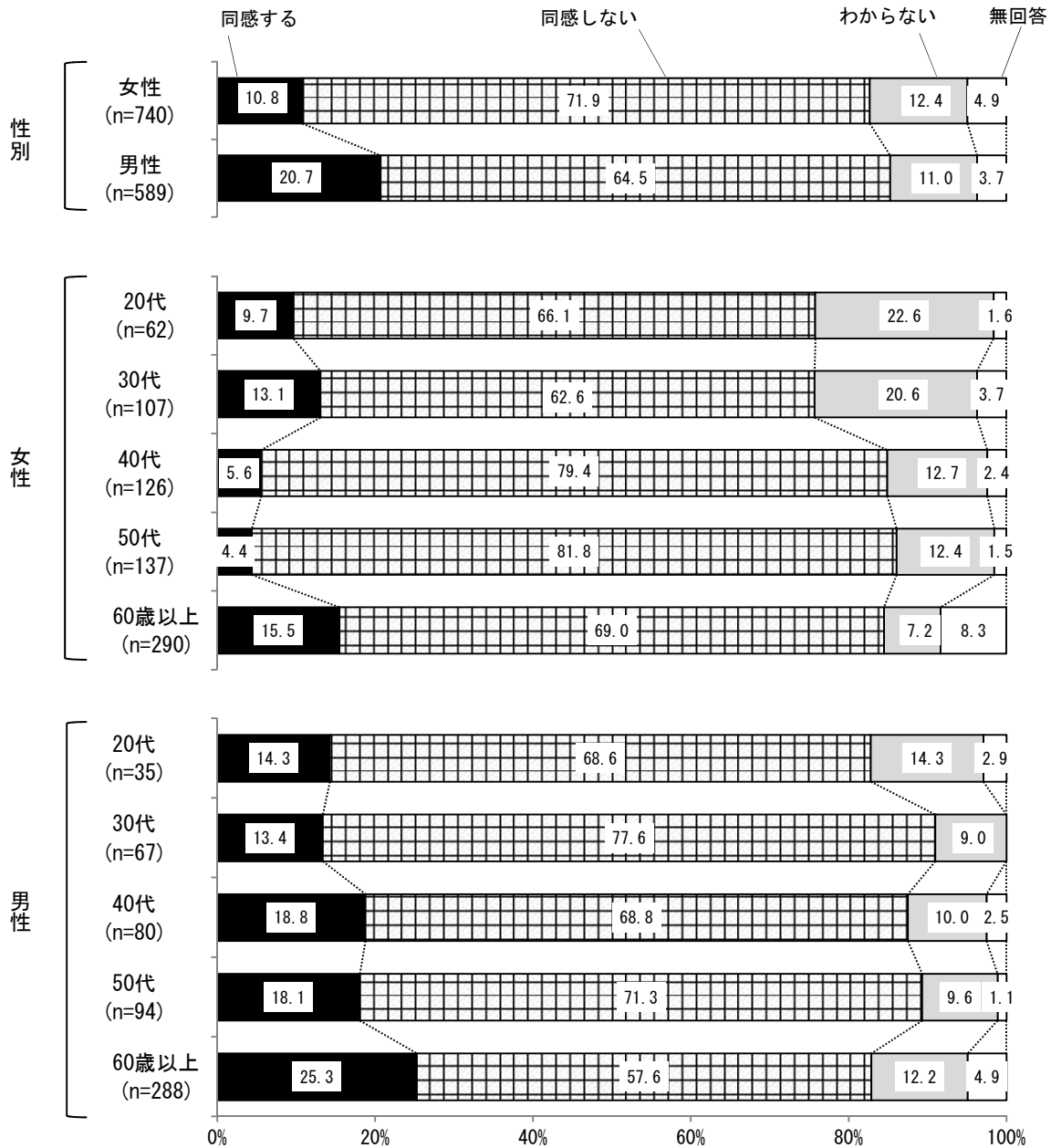
※国調査は、内閣府がH24年10月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、「同感しない」は女性（71.9%）が男性（64.5%）を7.4ポイント上回っている。一方、「同感する」は男性（20.7%）が女性（10.8%）を9.9ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「同感しない」が女性は50代で最も高くなっており、男性は60歳以上を除き、7割前後になっている。

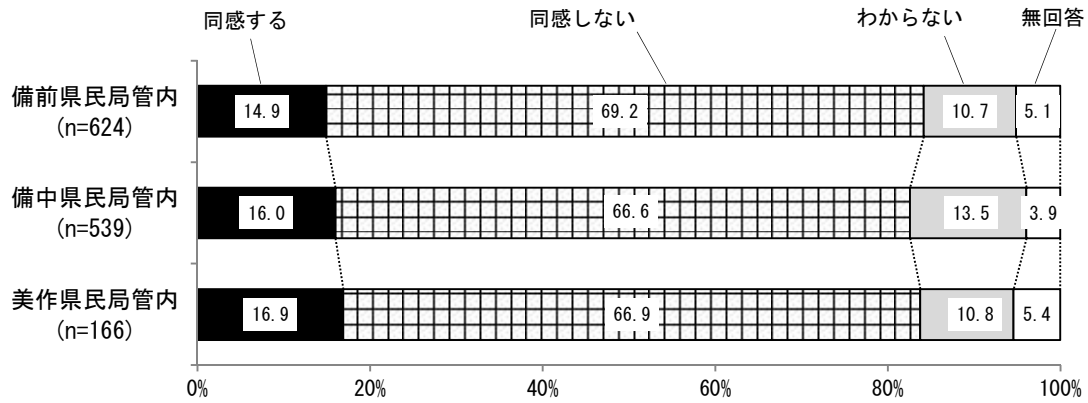
【図表 1-3 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、「同感しない」は6割を超え、「同感する」は1割を超えている。

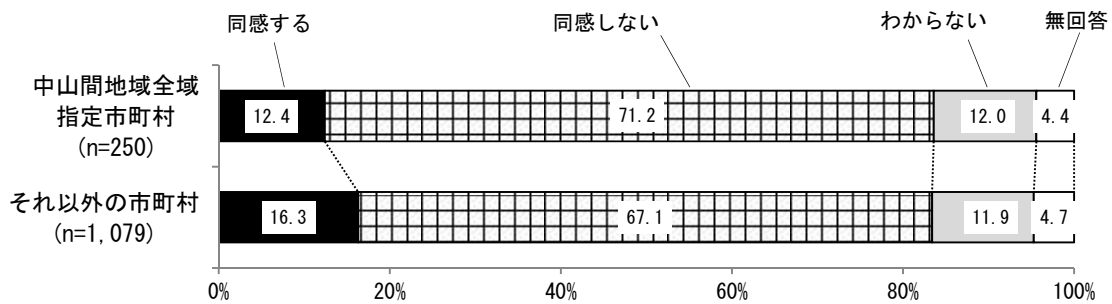
【図表 1-4 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（地域別 1）】



<地域別 2>

いずれの地域も、「同感しない」が7割程度と高くなっている。「同感する」はそれ以外の市町村が中山間地域全域指定市町村を上回っているものの、大きな差はみられない。

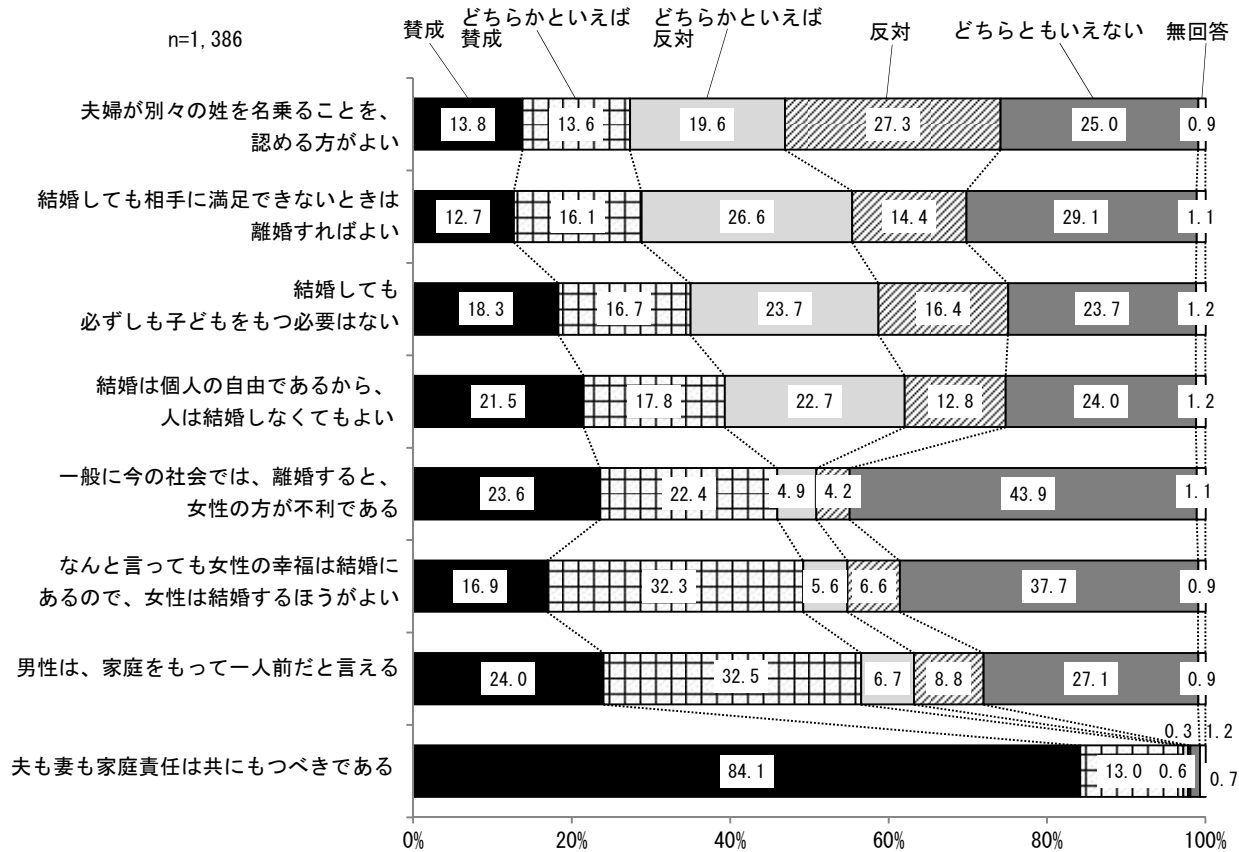
【図表 1-5 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識（地域別 2）】



(2) 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方

問2 結婚や離婚、夫婦別姓等についてあなたはどのようにお考えですか。それぞれについてあなたのお考えにもっとも近いものについてお答えください。(○印はそれぞれ1つ)

【図表 2-1 結婚・離婚・夫婦別姓等についての考え方】



◆「夫も妻も家庭責任は共にもつべきである」は97.1%が『賛成』

「夫も妻も家庭責任は共にもつべきである」について、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）は97.1%と多数を占めている。また、「一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である」、「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい」、「男性は、家庭をもって一人前だと言える」についても『賛成』が5割程度と高くなっている。

一方、「夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい」、「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合）が4割を超えている。

「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」は『賛成』、『反対』、「どちらともいえない」に意見が分かれている。

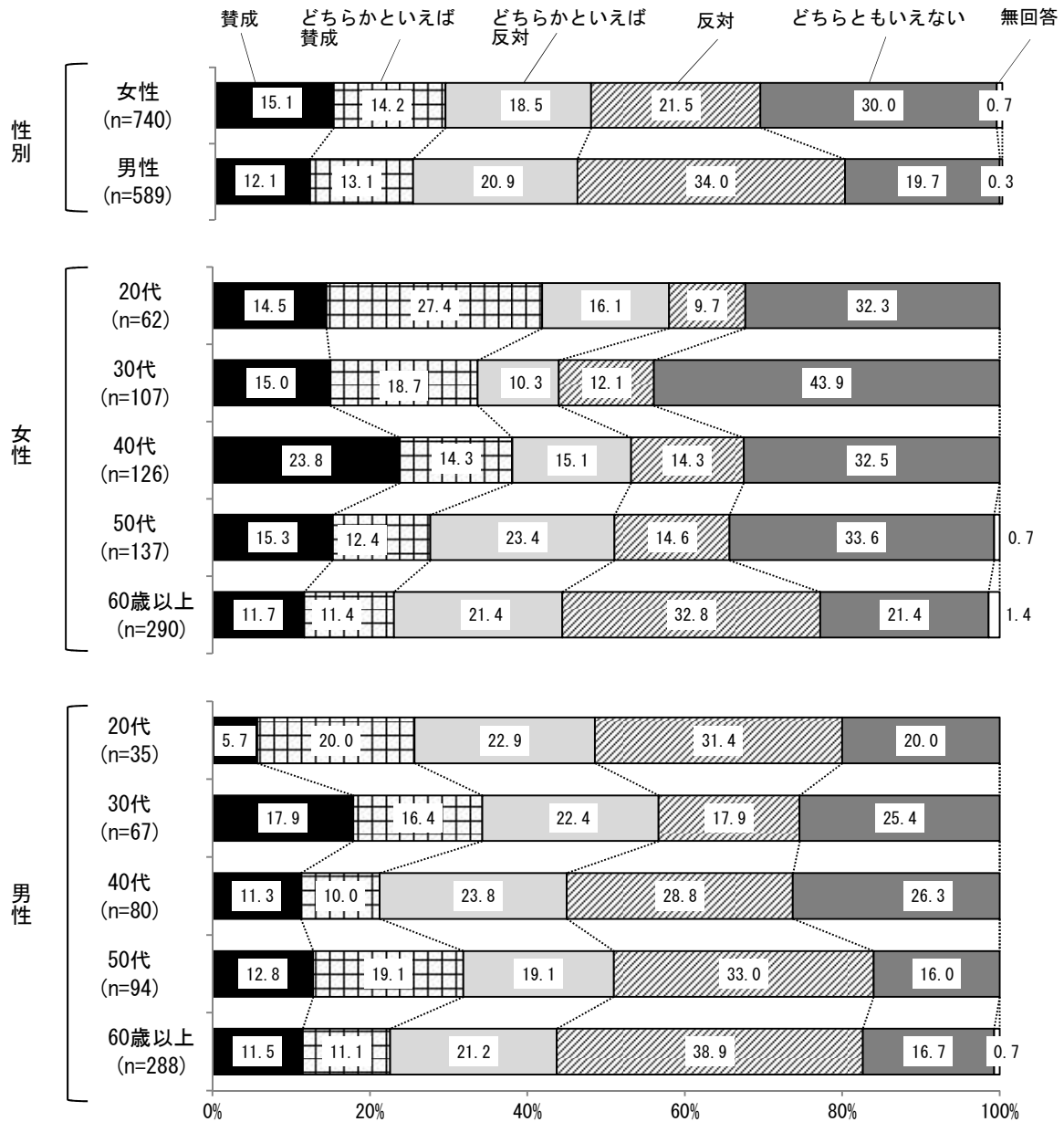
①「夫婦別姓は認めるべき」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『反対』は男性（54.9%）が女性（40.0%）を14.9ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『賛成』は女性で20代、男性で30代が高くなっている。『反対』は女性で年齢が上がるにつれて高くなる傾向にある。

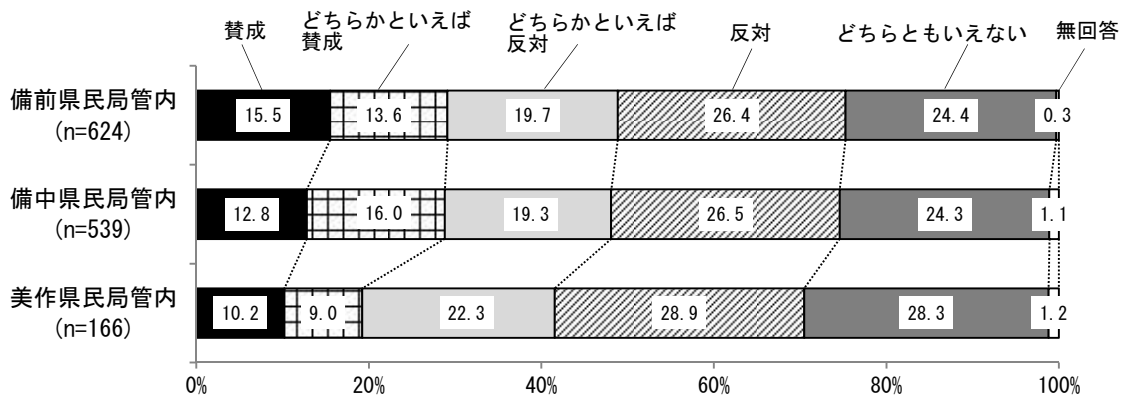
【図表 2-1-1 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

美作県民局管内は他の地域と比べ、『賛成』(19.2%)が低く、『反対』(51.2%)が高くなっている。

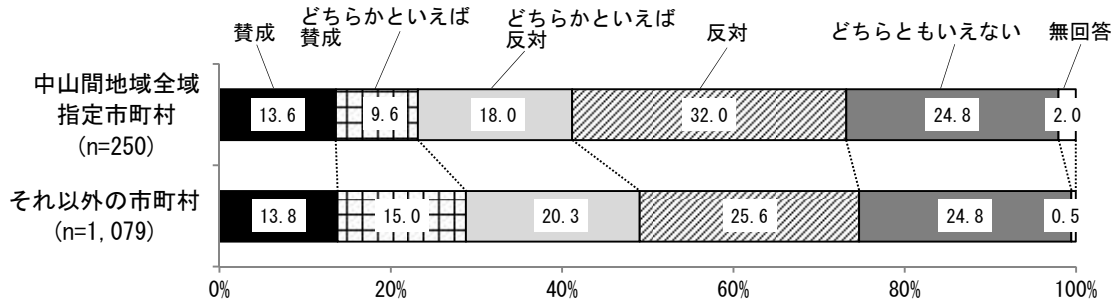
【図表 2-1-2 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(地域別 1)】



<地域別 2>

『賛成』は中山間地域全域指定市町村(23.2%)がそれ以外の市町村(28.8%)を5.6ポイント下回っている。

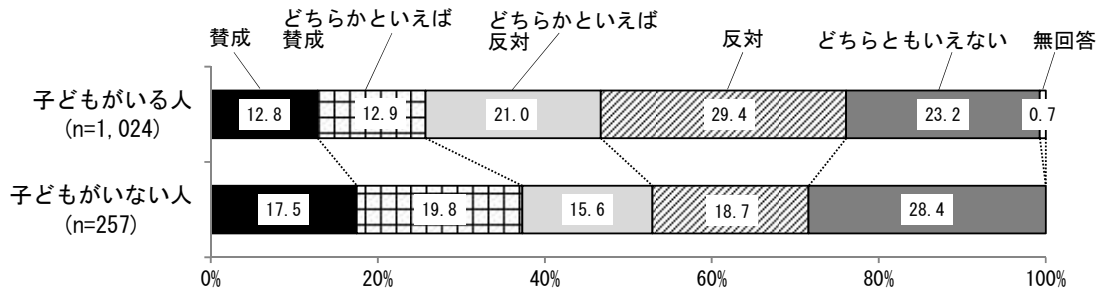
【図表 2-1-3 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(地域別 2)】



<子どもの有無別>

『反対』は「子どもがいる人」が50.4%と5割を上回っており、「子どもがいない人」(34.3%)を16.1ポイント上回っている。

【図表 2-1-4 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(子どもの有無別)】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』、『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-1-5 夫婦が別々の姓を名乗ることを、認める方がよい(前回調査との比較)】

(単位:%)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	13.4	10.3	22.2	19.0	33.6	23.7	52.6
H16	14.7	10.6	21.3	18.7	33.0	25.3	51.7
H21	13.0	12.1	23.3	18.9	31.3	25.2	50.1
H26	13.8	13.6	25.0	19.6	27.3	27.3	46.8

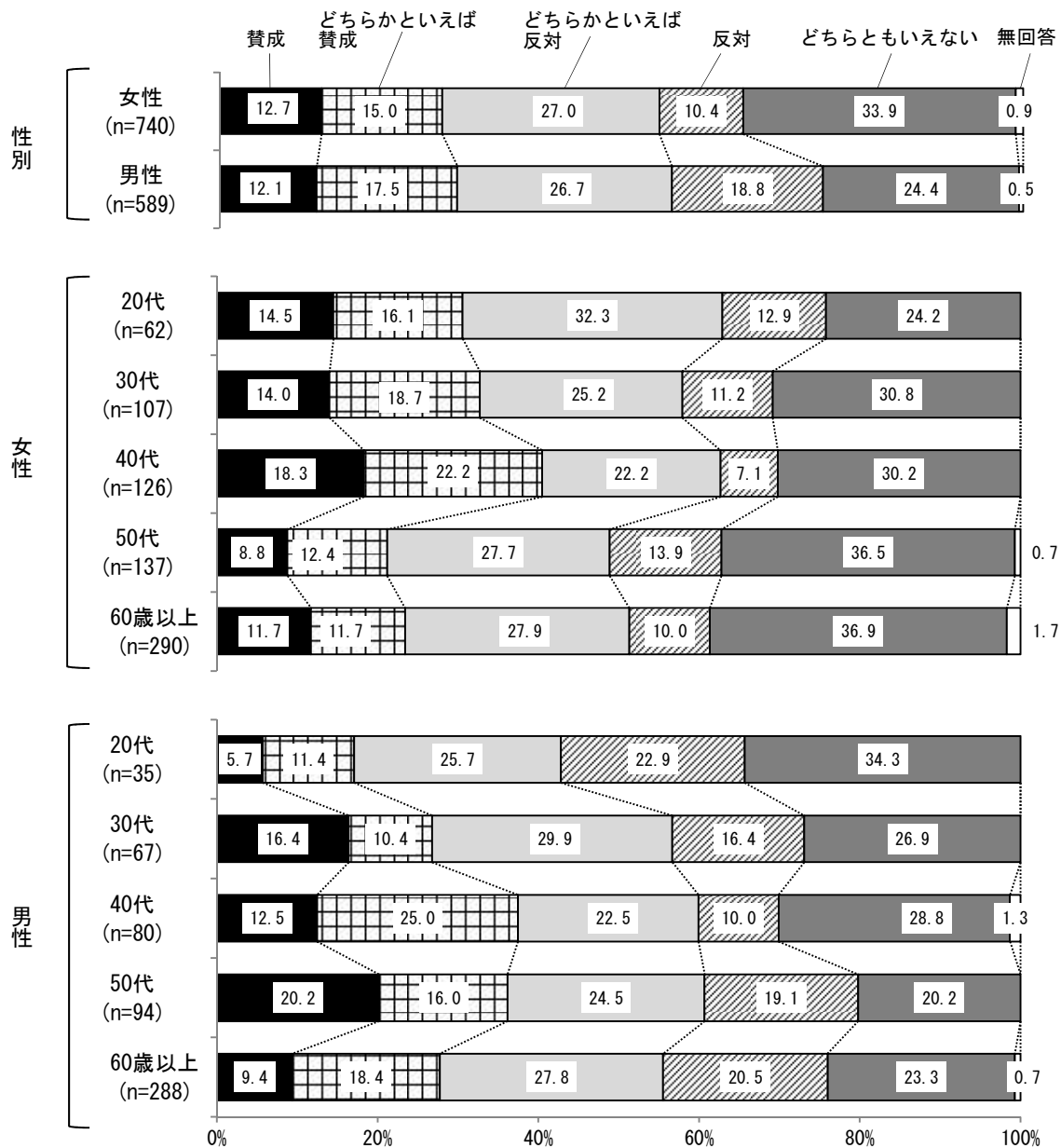
※図表 2-1-5 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

②「満足できないときは離婚」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『反対』は男性（45.5%）が女性（37.4%）を8.1ポイント上回っている。
 性・年齢別にみると、男性40代、女性40代を除き、『反対』の割合が高くなっている。

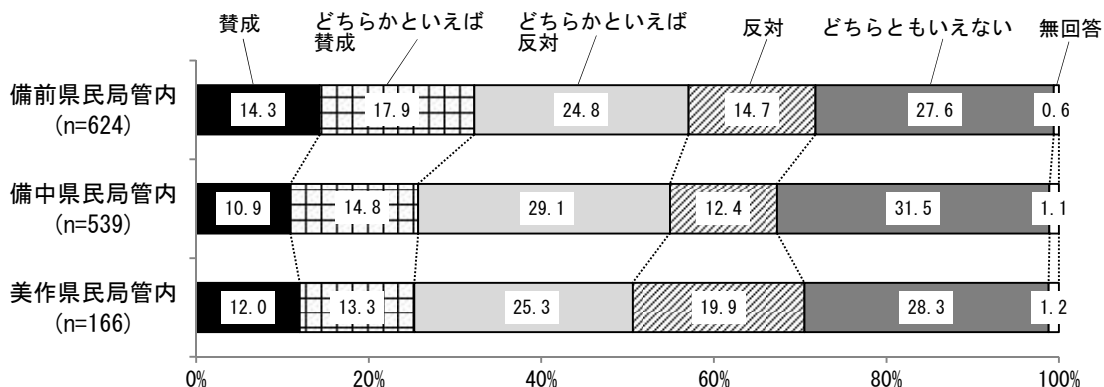
【図表 2-2-1 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『反対』は4割程度となっている。備前県民局管内は『賛成』(32.2%)が他の地域と比べ、高くなっている。

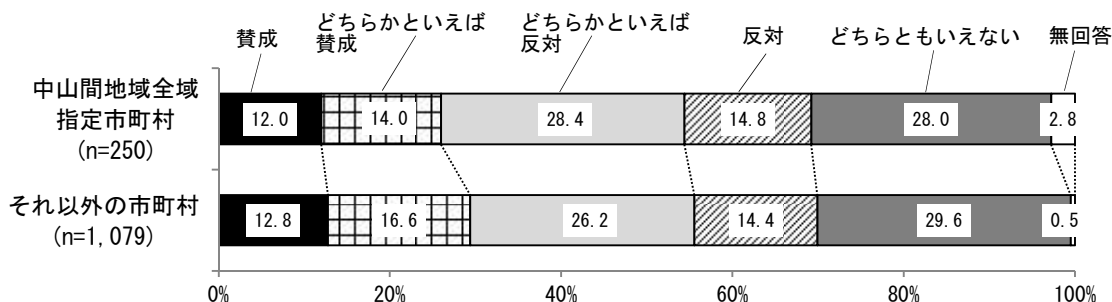
【図表 2-2-2 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(地域別 1)】



<地域別 2>

『賛成』はそれ以外の市町村が、『反対』は中山間地域全域指定市町村がわずかに上回っているものの、大きな差はみられない。

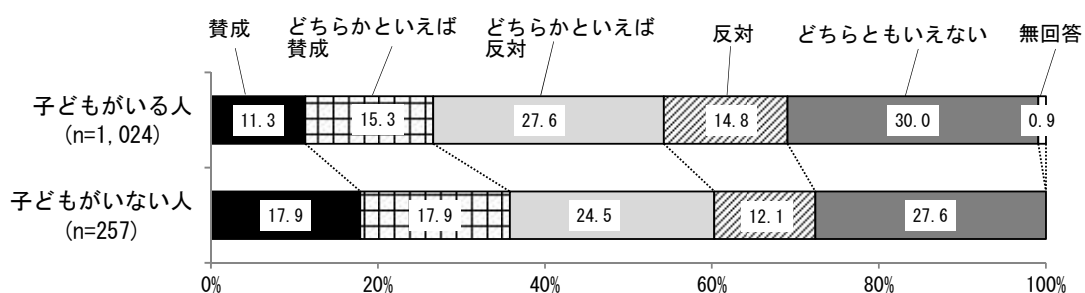
【図表 2-2-3 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(地域別 2)】



<子どもの有無別>

『反対』は「子どもがいる人」(42.4%)が「子どもがいない人」(36.6%)を5.8ポイント上回っている。『賛成』は「子どもがいない人」(35.8%)が「子どもがいる人」(26.6%)を9.2ポイント上回っている。

【図表 2-2-4 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい(子どもの有無別)】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-2-5 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（前回調査との比較）】

(単位:%)

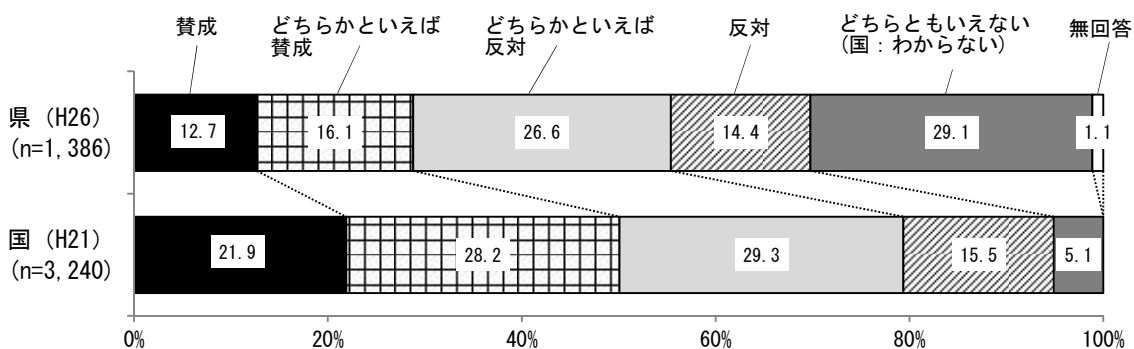
	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対	賛成計	反対計
H12	15.1	15.7	27.5	25.0	14.6	30.8	39.6
H16	14.2	16.6	27.5	24.4	15.2	30.8	39.6
H21	12.1	17.8	25.8	27.7	15.1	29.9	42.8
H26	12.7	16.1	29.1	26.6	14.4	28.8	41.0

※図表 2-2-5 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

<国調査との比較>

国調査と比べると、『賛成』は県調査（H26）（28.8%）が国調査（50.1%）を21.3ポイント下回っている。

【図表 2-2-6 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（国調査との比較）】



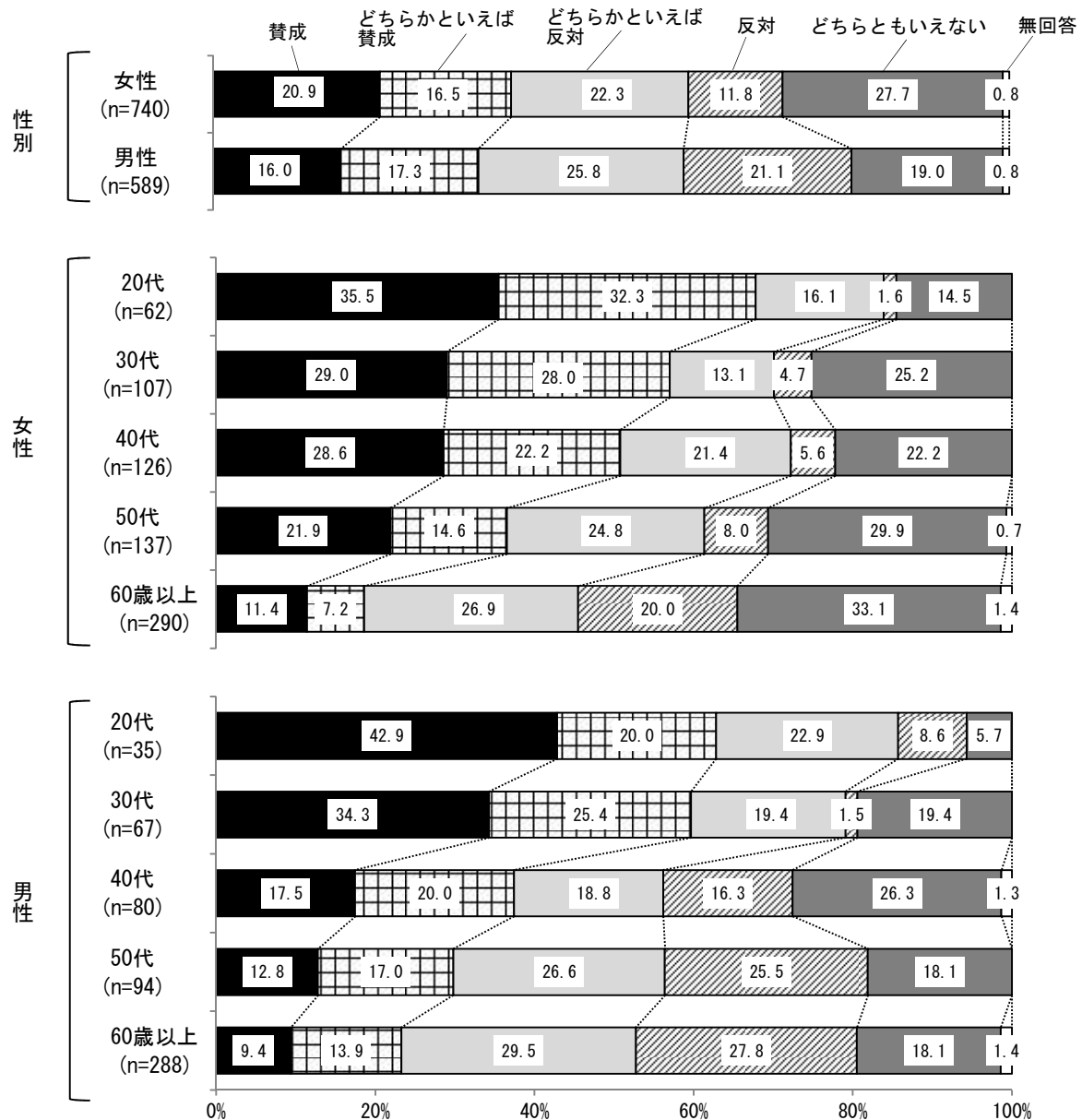
③「結婚しても子どもをもつ必要はない」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『反対』は男性（46.9%）が女性（34.1%）を12.8ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は、年齢が上がるにつれて『反対』の割合が高くなっている。男性も30代を除き、年齢が上がるにつれて『反対』の割合が高くなっている。

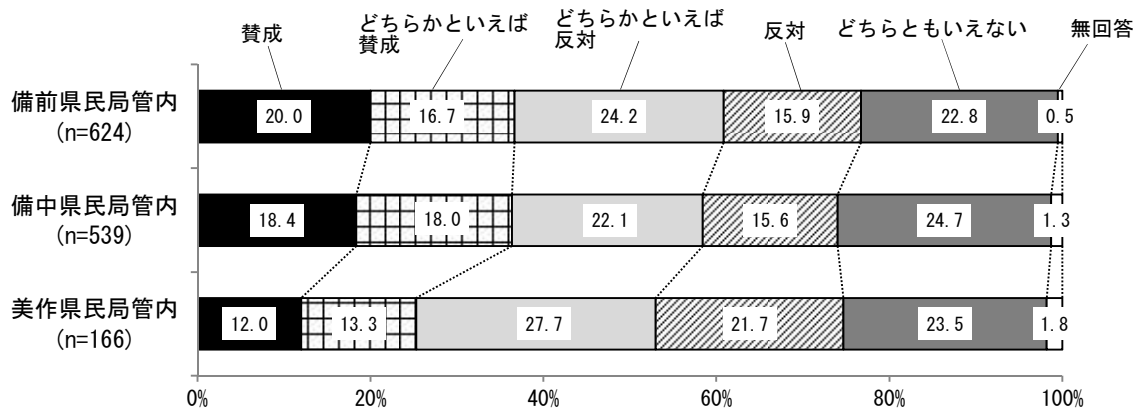
【図表 2-3-1 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『反対』は4割を超えている中で、美作県民局管内では『反対』が49.4%と他の地域と比べ、高くなっている。『賛成』は備前県民局管内(36.7%)が最も高く、最も低い美作県民局管内(25.3%)とは11.4ポイントの差がある。

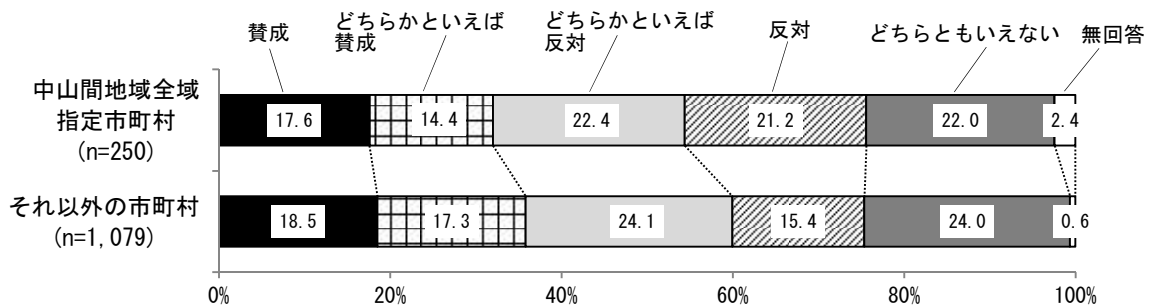
【図表 2-3-2 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(地域別 1)】



<地域別 2>

『反対』は中山間地域全域指定市町村(43.6%)がそれ以外の市町村(39.5%)を4.1ポイント上回っている。

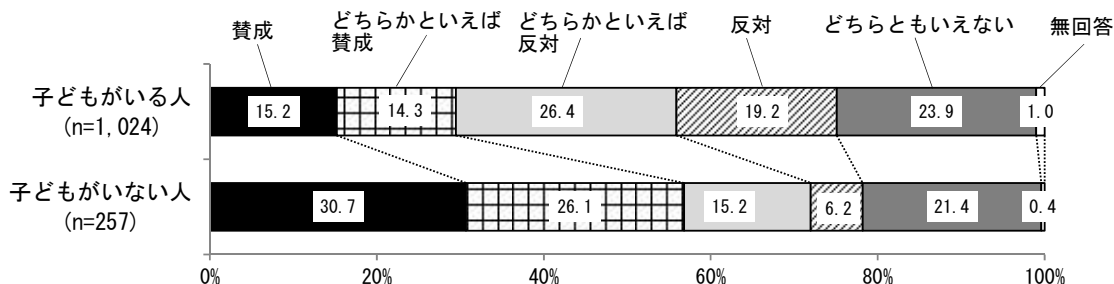
【図表 2-3-3 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(地域別 2)】



<子どもの有無別>

「子どもがいる人」は、『反対』が4割を超えている一方、「子どもがいない人」は、『賛成』が半数を超えており、意見が大きく割れている。

【図表 2-3-4 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（子どもの有無別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『反対』は8.8ポイント低下しており、『賛成』は6.6ポイント上昇している。

【図表 2-3-5 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（前回調査との比較）】

(単位:%)

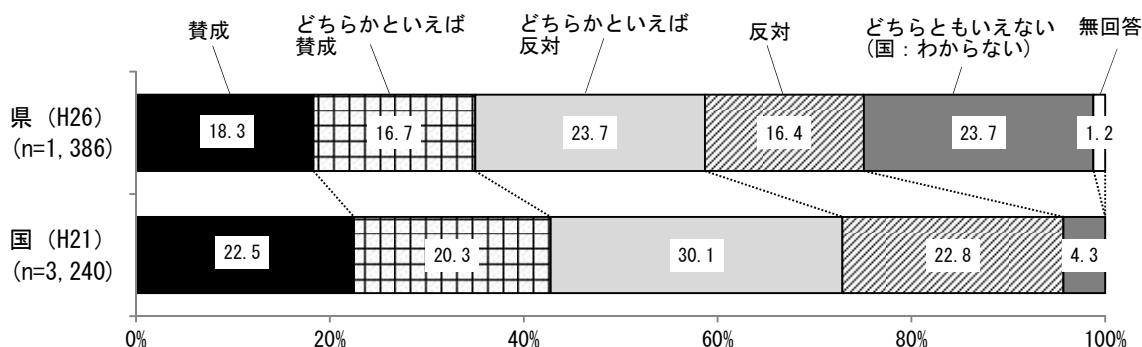
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	16.4	10.6	20.0	27.5	23.1	27.0	50.6
H16	14.9	10.5	23.1	25.2	23.9	25.4	49.1
H21	16.0	12.6	21.1	26.4	22.4	28.5	48.9
H26	18.3	16.7	23.7	23.7	16.4	35.1	40.1

※図表 2-3-5 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

<国調査との比較>

国調査と比べると、国調査は『賛成』が42.8%、『反対』が52.9%となっており、『賛成』は7.8ポイント、『反対』は12.8ポイント国調査を下回っている。

【図表 2-3-6 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない（国調査との比較）】



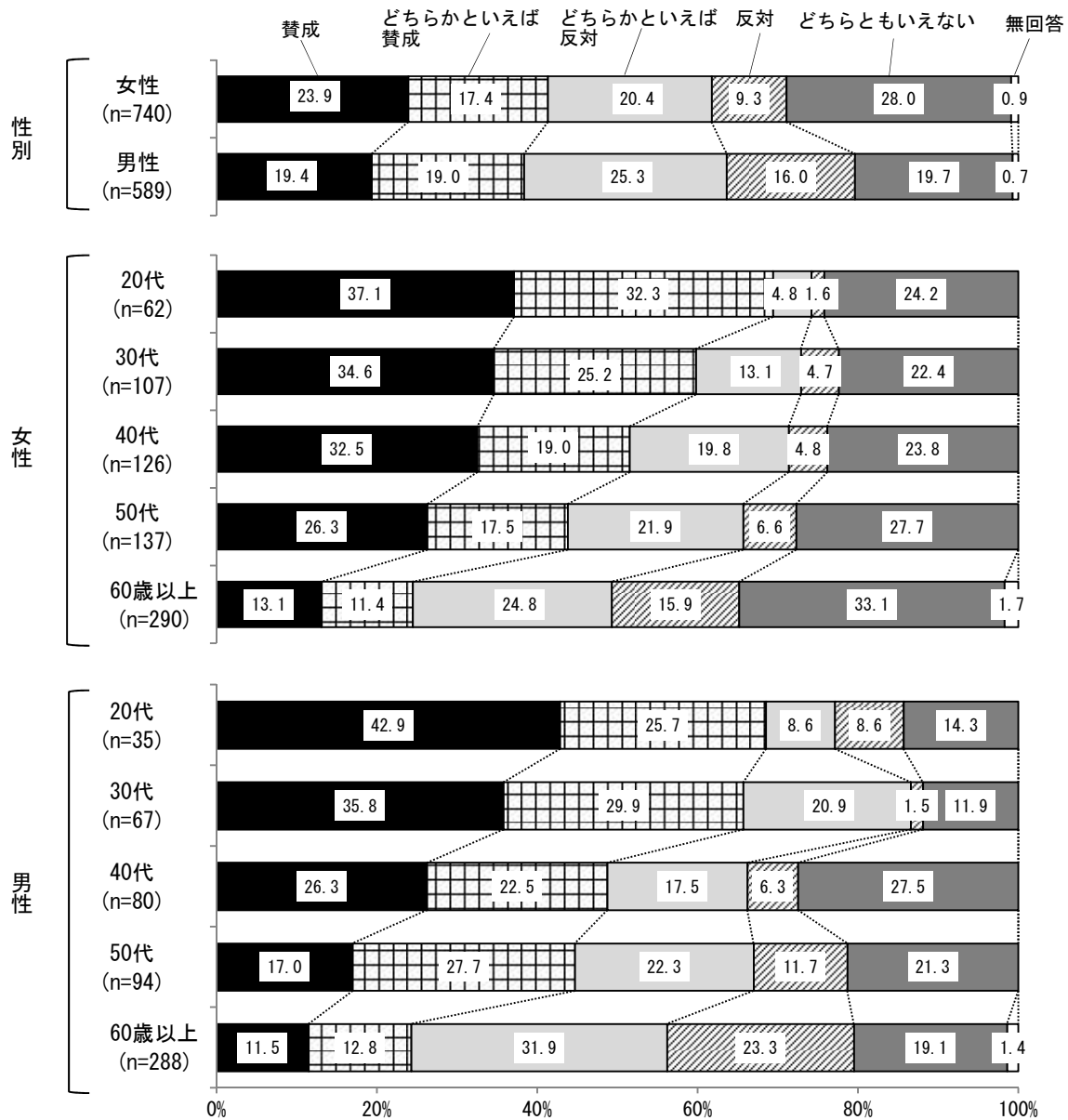
④「結婚は個人の自由」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、女性は『賛成』、「どちらともいえない」、『反対』に意見が分かれている。一方、男性は、『反対』が41.3%と半数近くを占めており、女性を11.6ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて『反対』の割合が高くなっている。特に、男性60歳以上は『反対』が5割を超えている。

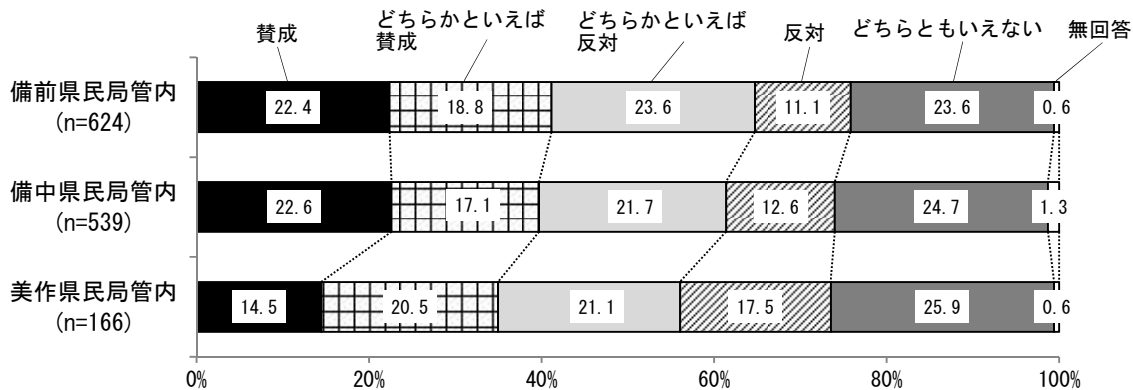
【図表 2-4-1 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『賛成』、『反対』がそれぞれ3割を超えている。

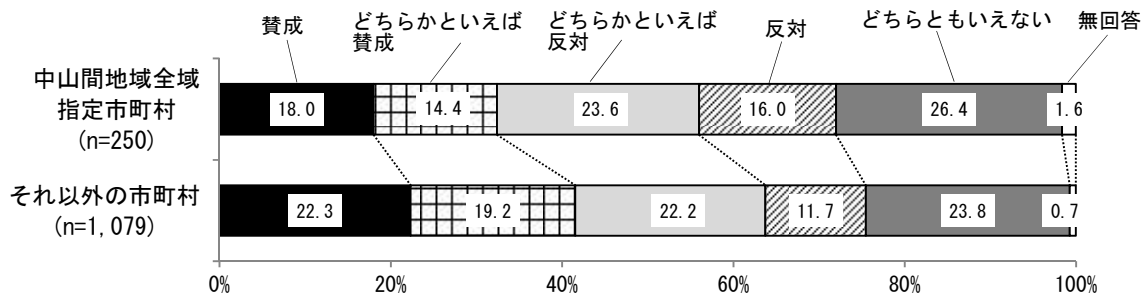
【図表 2-4-2 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（地域別 1）】



<地域別 2>

中山間地域全域指定市町村は『反対』が39.6%と高く、それ以外の市町村は『賛成』が41.5%と高くなっている。

【図表 2-4-3 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（地域別 2）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-4-4 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（前回調査との比較）】

(単位: %)

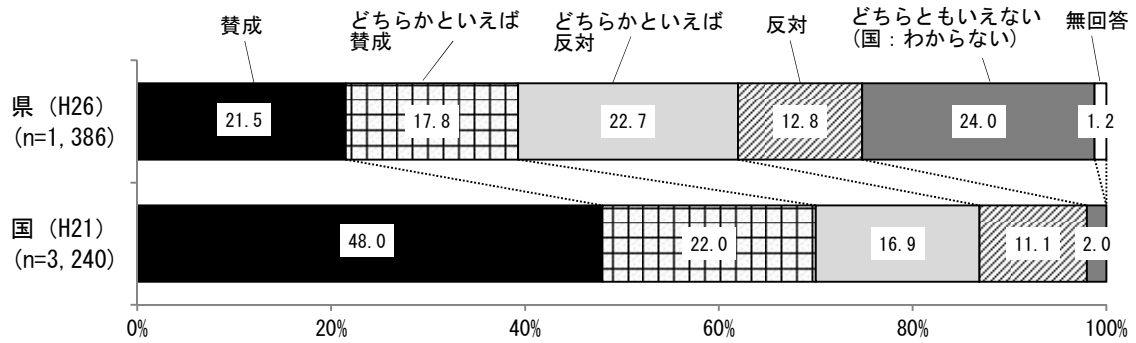
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	23.2	16.4	20.8	24.3	12.6	39.6	36.9
H16	20.8	15.2	26.6	22.5	12.5	36.0	35.0
H21	18.8	16.4	24.0	24.3	15.1	35.2	39.4
H26	21.5	17.8	24.0	22.7	12.8	39.3	35.5

※図表 2-4-4 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

<国調査との比較>

国調査（H21）と比べると、『賛成』は国調査の2分の1程度となっている。

【図表 2-4-5 結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい（国調査との比較）】



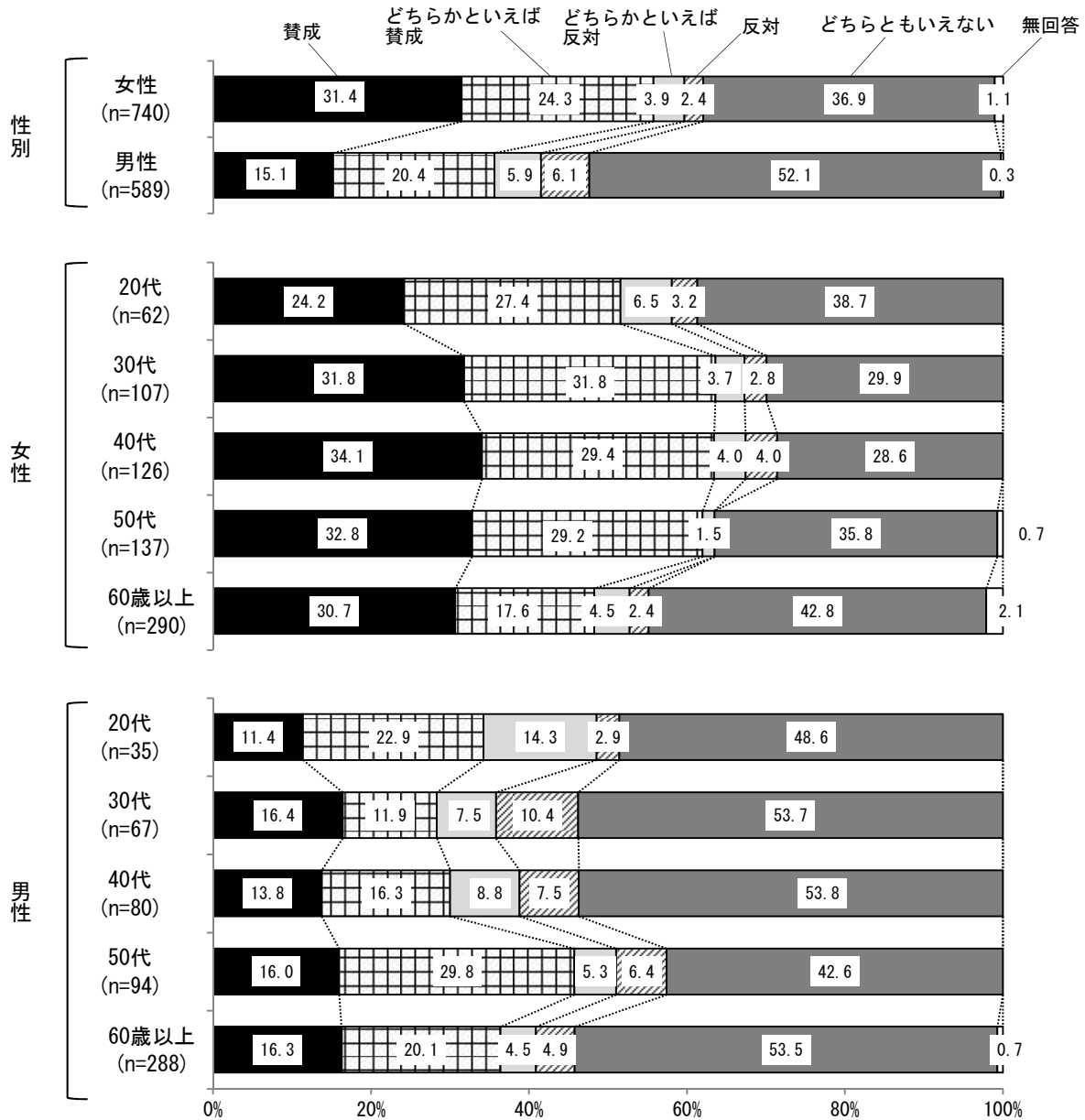
⑤ 「離婚は女性に不利」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は女性（55.7%）が男性（35.5%）を20.2ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『賛成』は女性30代、40代、50代で高くなっている。また、男性は50代で『賛成』が5割程度と他の年代に比べ高くなっている。

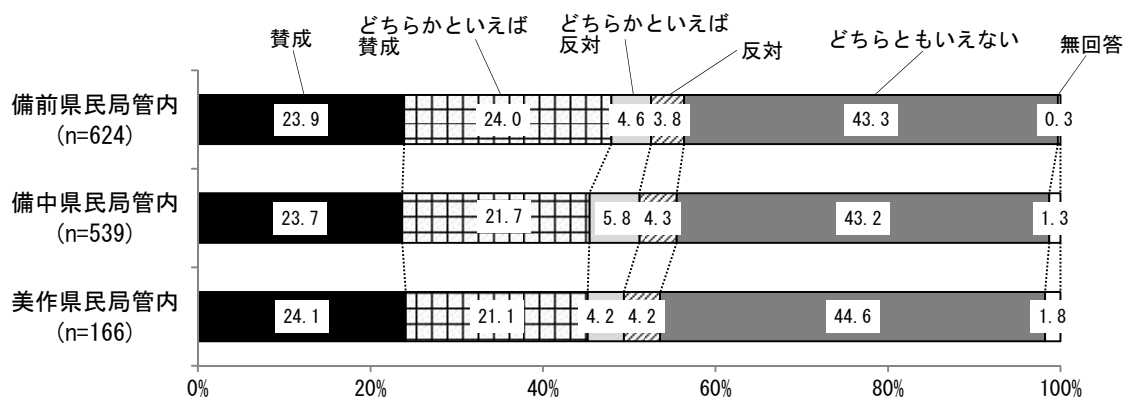
【図表 2-5-1 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

地域別にみると、大きな差はみられない。

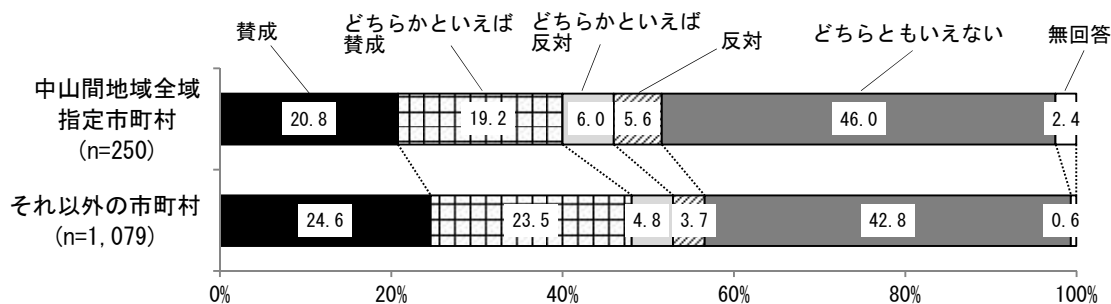
【図表 2-5-2 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である（地域別 1）】



<地域別 2>

『賛成』は中山間地域全域指定市町村(40.0%)がそれ以外の市町村(48.1%)を 8.1 ポイント下回っている。

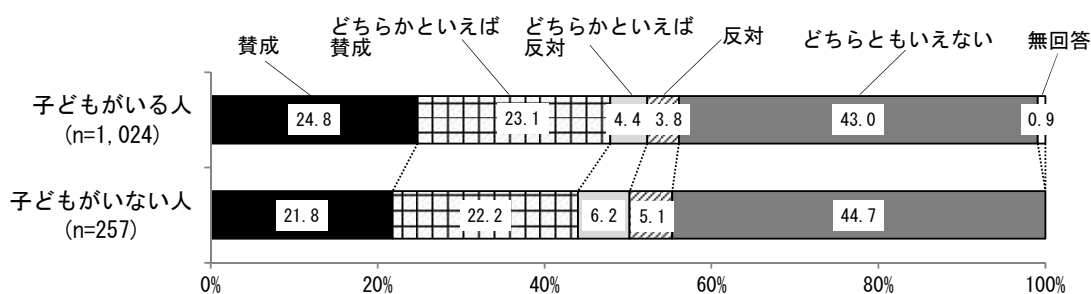
【図表 2-5-3 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である（地域別 2）】



<子どもの有無別>

『賛成』は子どもがいる、いないに関わらず、4割を超えており、大きな差はみられない。

【図表 2-5-4 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である（子どもの有無別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』、『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-5-5 一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である（前回調査との比較）】

(単位:%)

	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対	賛成計	反対計
H12	27.6	17.1	44.5	3.8	4.9	44.7	8.7
H16	27.8	20.0	42.9	4.0	2.8	47.8	6.8
H21	25.4	21.3	43.4	4.2	4.0	46.8	8.1
H26	23.6	22.4	43.9	4.9	4.2	46.0	9.1

※図表 2-5-5 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

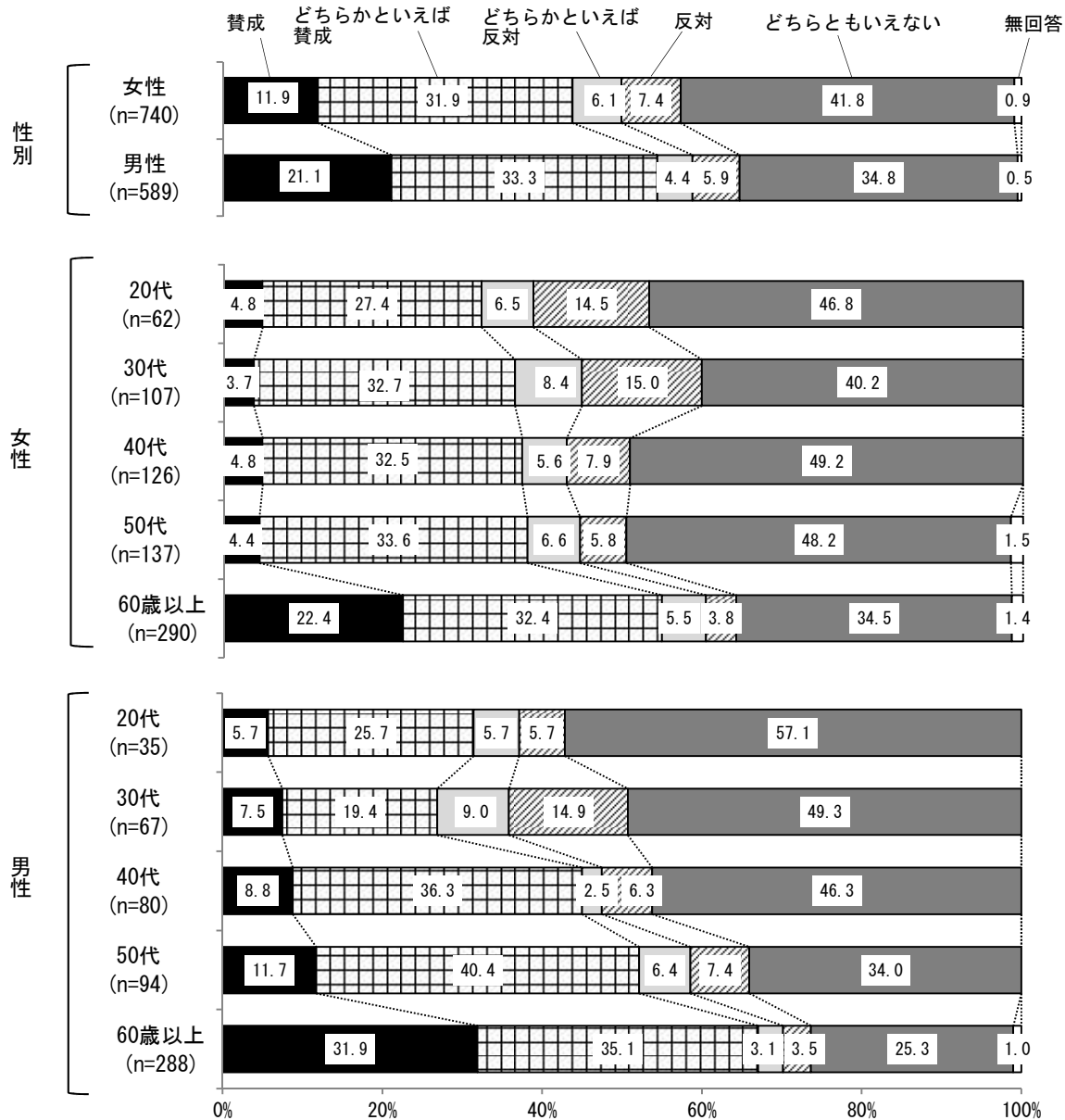
⑥ 「女性の幸福は結婚」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は女性（43.8%）が男性（54.4%）を10.6ポイント下回っている。

性・年齢別にみると、女性は60歳以上で『賛成』の割合が急激に高まり5割を超え、男性は50代から『賛成』の割合が高くなり、50代、60歳以上で5割を超えている。

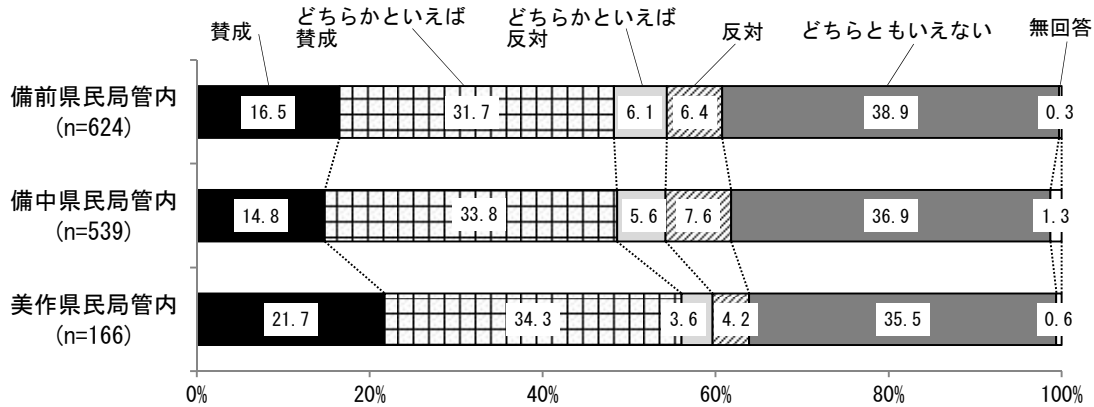
【図表 2-6-1 女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『賛成』が4割を超えており、美作県民局管内では『賛成』が56.0%と他の地域と比べ、高くなっている。

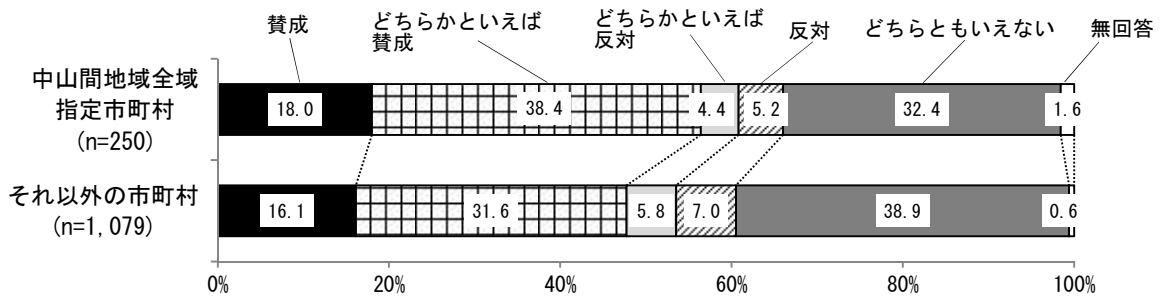
【図表 2-6-2 女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（地域別 1）】



<地域別 2>

『賛成』は中山間地域全域指定市町村(56.4%)がそれ以外の市町村(47.7%)を8.7ポイント上回っている。

【図表 2-6-3 女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（地域別 2）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』、『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-6-4 女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚するほうがよい（前回調査との比較）】

(単位: %)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対	賛成計	反対計
H12	22.9	33.3	34.0	5.0	3.7	56.2	8.7
H16	21.8	31.3	37.3	3.5	4.4	53.1	7.9
H21	18.6	32.5	38.3	5.1	4.6	51.1	9.7
H26	16.9	32.3	37.7	5.6	6.6	49.2	12.1

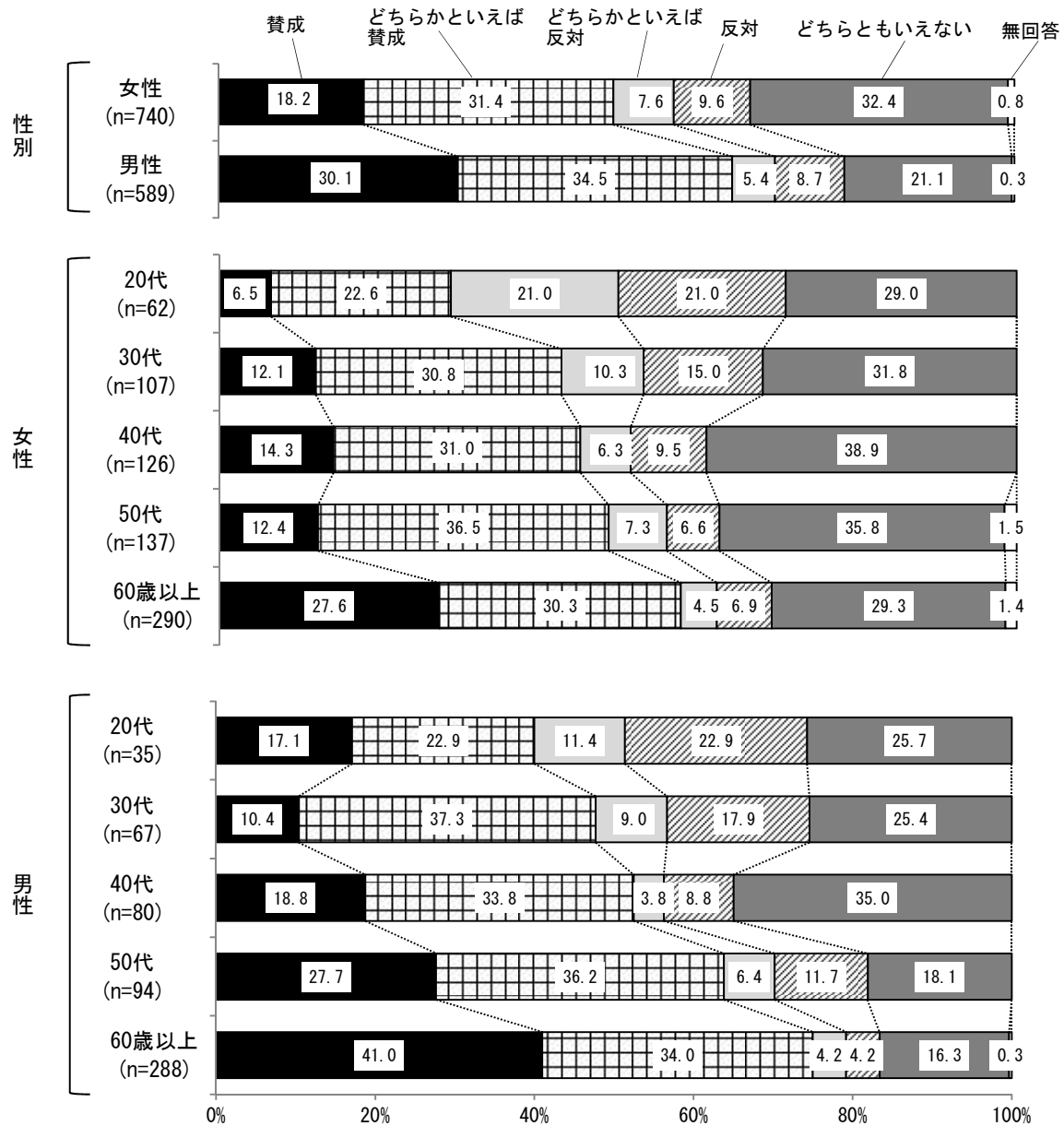
※図表 2-6-4 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

⑦「男性は家庭をもって一人前」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『賛成』は男性（64.6%）が女性（49.6%）を15.0ポイント上回っている。
 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて『賛成』の割合が高くなっている。

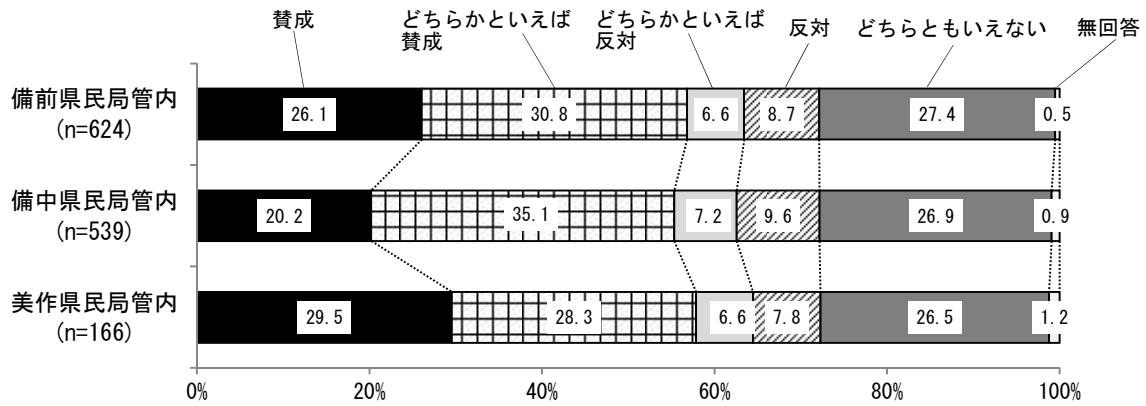
【図表 2-7-1 男性は、家庭をもって一人前だと言える（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『賛成』は5割を超えている。また、備中県民局管内では「賛成」(20.2%)が他の地域と比べ、低くなっている。

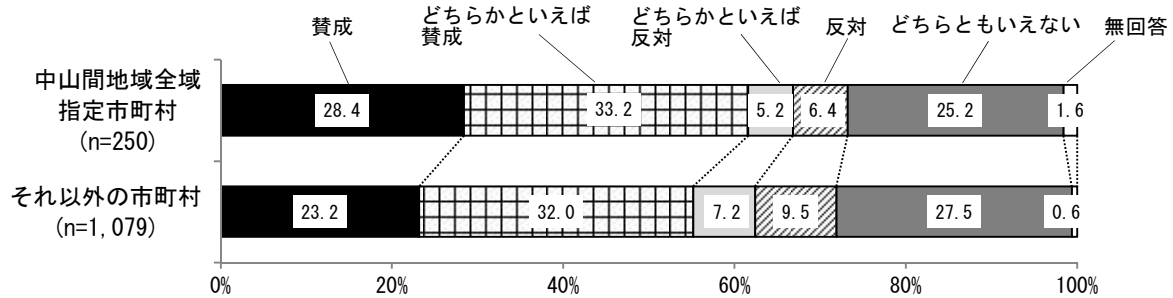
【図表 2-7-2 男性は、家庭をもって一人前だと言える (地域別 1)】



<地域別 2>

『賛成』は中山間地域全域指定市町村(61.6%)がそれ以外の市町村(55.2%)を6.4ポイント上回っている。

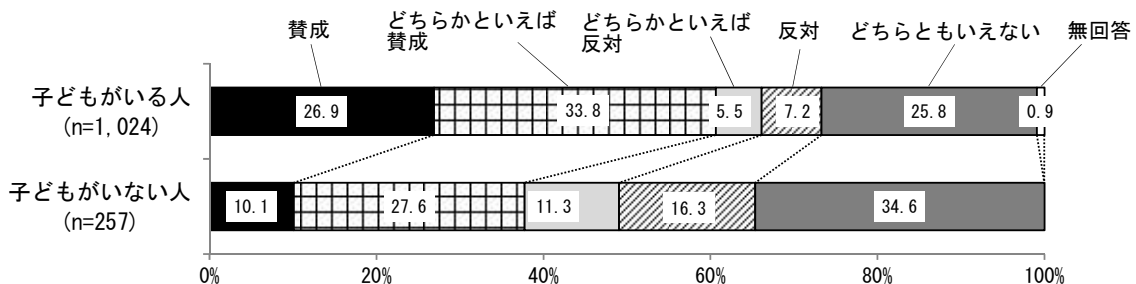
【図表 2-7-3 男性は、家庭をもって一人前だと言える (地域別 2)】



<子どもの有無別>

「子どもがいる人」は『賛成』が5割を超えているが、「子どもがいない人」は『賛成』、『反対』、「どちらともいえない」に意見が分かれている。

【図表 2-7-4 男性は、家庭をもって一人前だと言える (子どもの有無別)】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』は8.2ポイント上昇している。

【図表 2-7-5 男性は、家庭をもって一人前だと言える（前回調査との比較）】

(単位:%)

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらとも いえない	どちらか といえば 反対	反対	賛成計	反対計
H21	24.2	24.1	31.0	6.8	12.8	48.3	19.6
H26	24.0	32.5	27.1	6.7	8.8	56.5	15.5

※図表 2-7-5 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

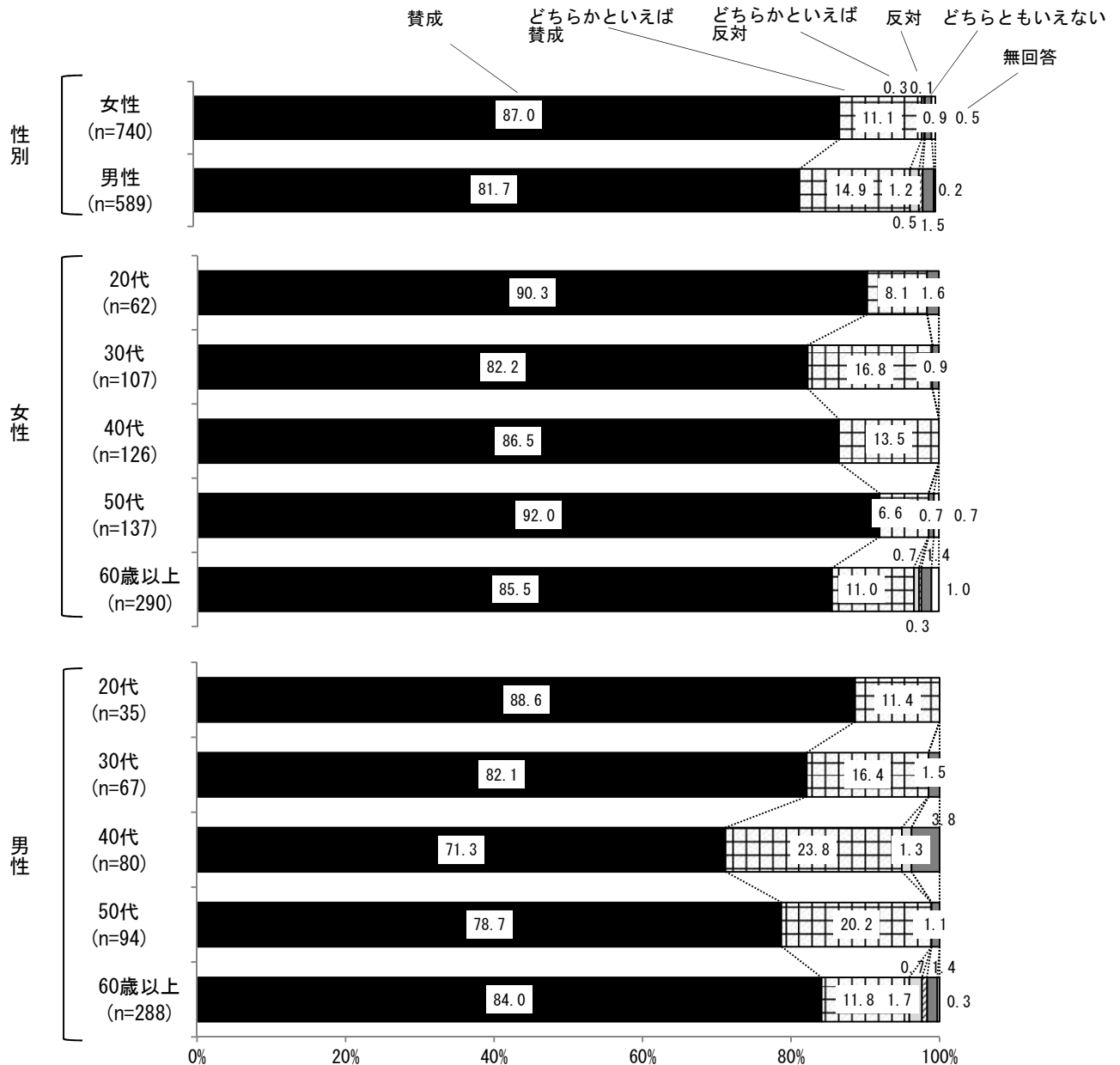
⑧ 「家庭責任は夫婦共にもつべき」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『賛成』は9割を超え高くなっている。

性・年齢別にみると、女性は30代を除き、「賛成」が9割程度を占めている。一方、男性は20代、40代を除き、「賛成」が8割程度を占めている。

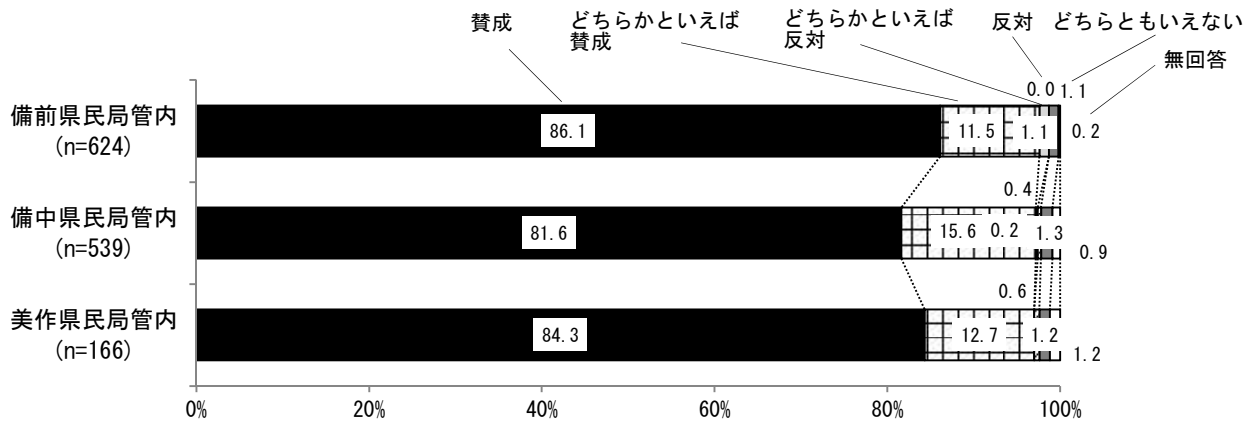
【図表 2-8-1 夫も妻も家庭責任は共にもつべきである（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『賛成』は9割を超えている。

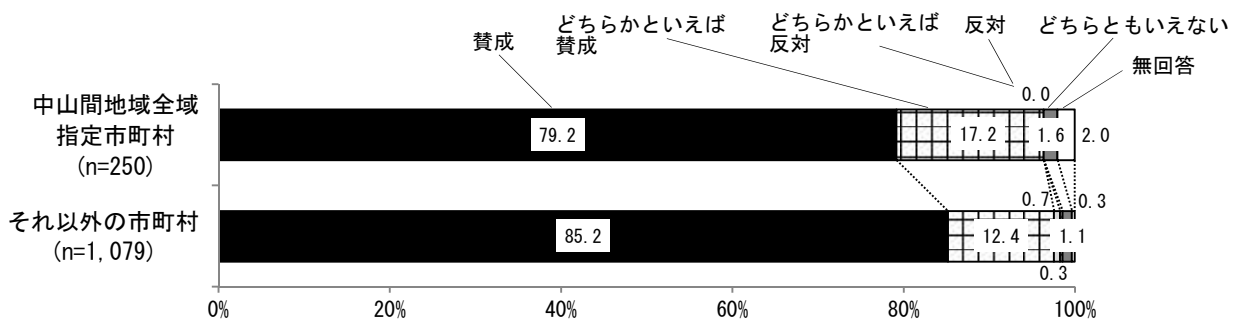
【図表 2-8-2 夫も妻も家庭責任は共にもつべきである（地域別 1）】



<地域別 2>

いずれの地域も、『賛成』が9割を超えており、大きな差はみられない。

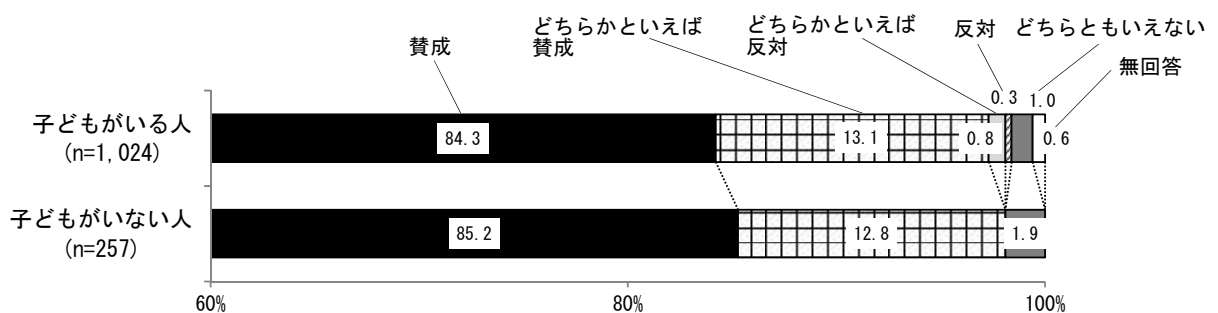
【図表 2-8-3 夫も妻も家庭責任は共にもつべきである（地域別 2）】



<子どもの有無別>

『賛成』は子どもがいる、いないに関わらず、9割を超えており、大きな差はみられない。

【図表 2-8-4 夫も妻も家庭責任は共にもつべきである（子どもの有無別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『賛成』と『反対』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 2-8-5 夫も妻も家庭責任は共にもつべきである（前回調査との比較）】

(単位:%)

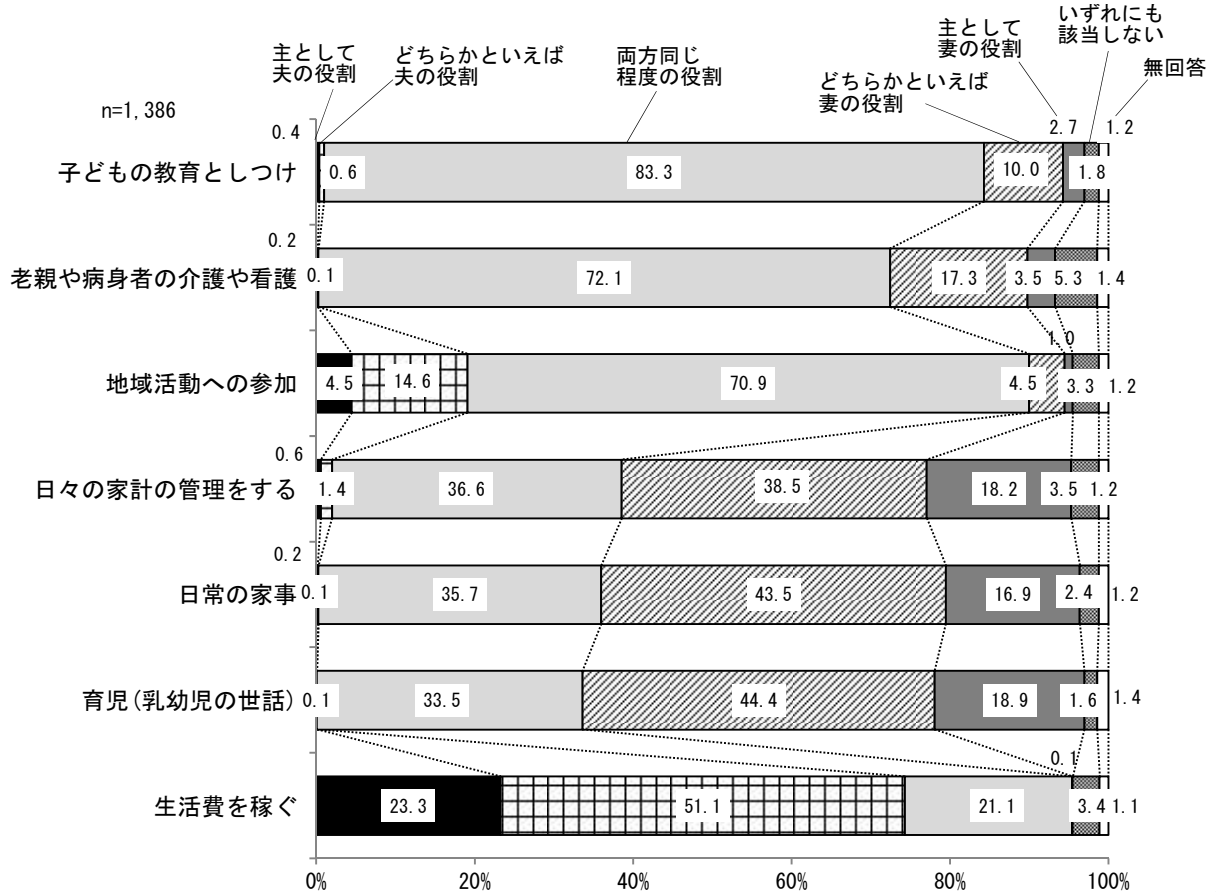
	賛成	どちらかといえ ば賛成	どちらとも いえない	どちらかといえ ば反対	反対	賛成計	反対計
H12	82.4	11.3	2.6	0.6	0.3	93.7	0.9
H16	84.1	11.1	1.9	0.5	0.6	95.2	1.1
H21	84.4	12.3	1.3	0.3	0.5	96.7	0.7
H26	84.1	13.0	1.2	0.6	0.3	97.1	0.9

※図表 2-8-5 は前回調査と同様に、賛成計、反対計は「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「賛成」と「どちらかといえば賛成」、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合の合計と一致しない場合がある。

(3) 家庭での仕事の役割についての考え方

問3 家庭での仕事の役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかそれぞれについてお答えください。(○印はそれぞれ1つ)

【図表 3-1 家庭での仕事の役割についての考え方】



◆ 「日常の家事」、「育児」は妻の役割、「生活費を稼ぐ」は夫の役割との認識が強い

家庭での仕事の役割について、「生活費を稼ぐ」は、『夫の役割』（「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合わせた割合）が7割となっている。一方、「日常の家事」、「育児（乳幼児の世話）」は、『妻の役割』（「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合わせた割合）が6割となっている。

「子どもの教育としつけ」、「老親や病身者の介護や看護」、「地域活動への参加」は、「両方同じ程度の役割」が7割を超えている。

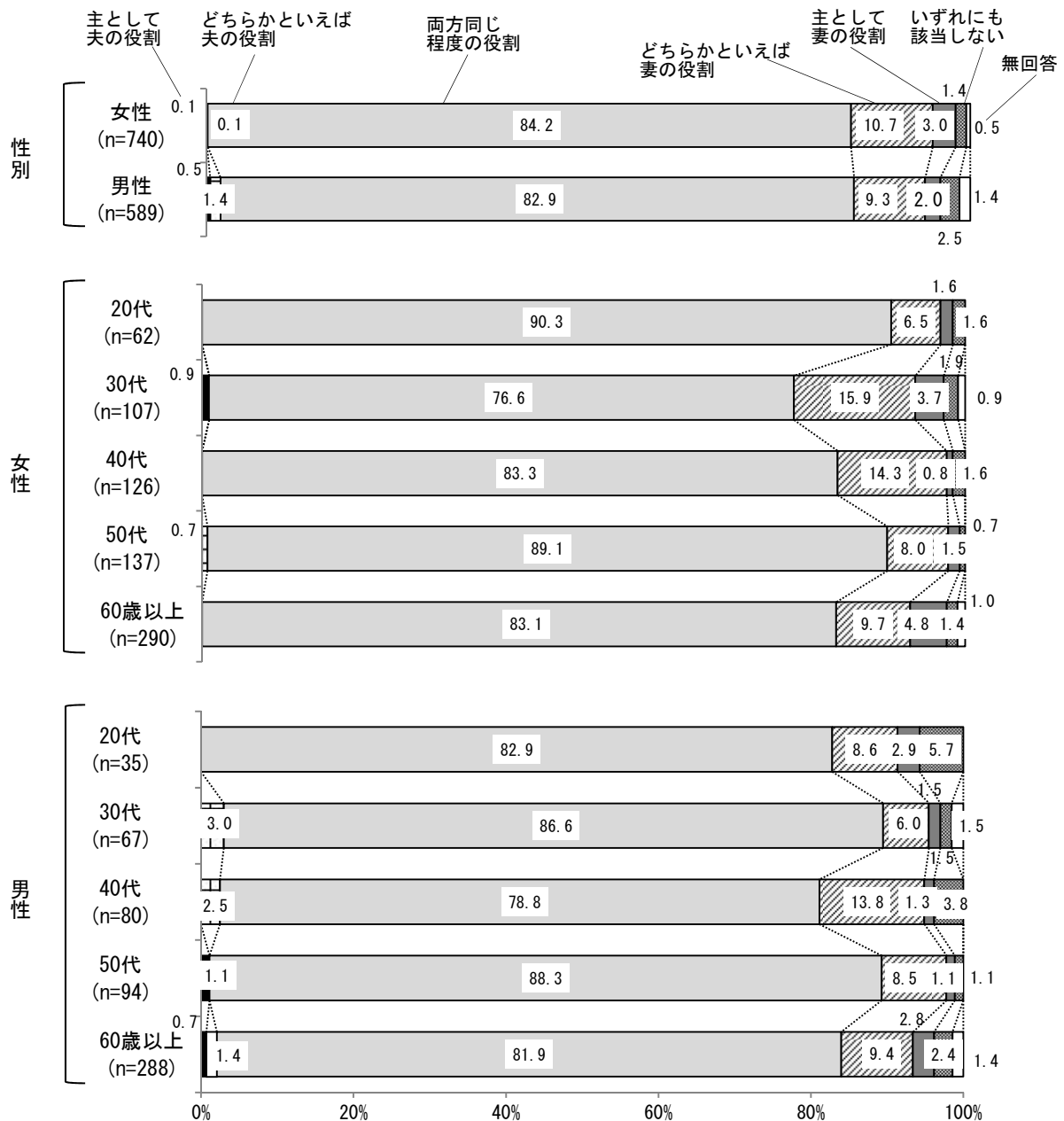
①「子どもの教育としつけ」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」は8割を超えている。

性・年齢別にみると、女性30代、男性40代を除き、すべての年代で「両方同じ程度の役割」は8割を超えている。特に女性20代は9割を超え最も高くなっている。

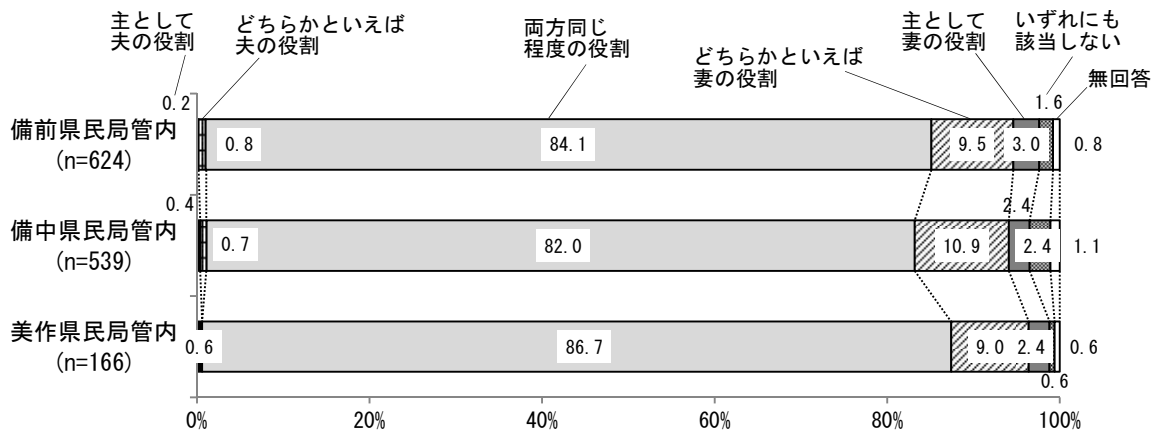
【図表 3-1-1 子どもの教育としつけ（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、「両方同じ程度の役割」は8割を超えており、大きな差はみられない。

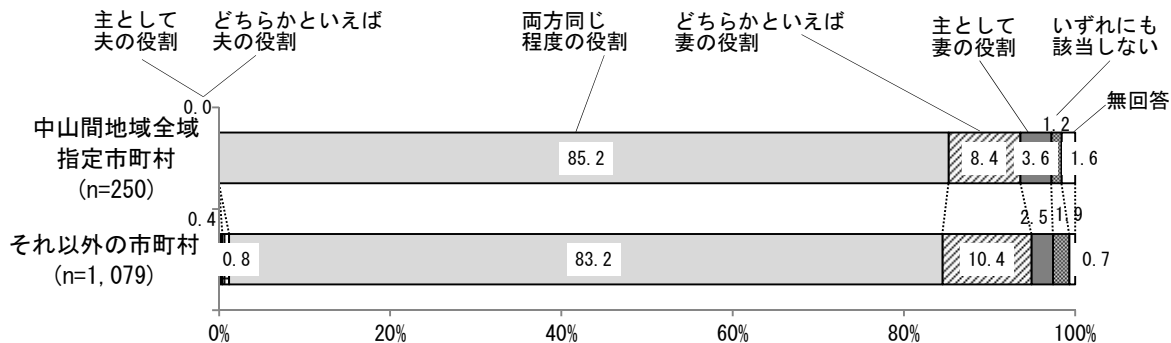
【図表 3-1-2 子どもの教育としつけ（地域別 1）】



<地域別 2>

いずれの地域も、「両方同じ程度の役割」は8割を超えており、大きな差はみられない。

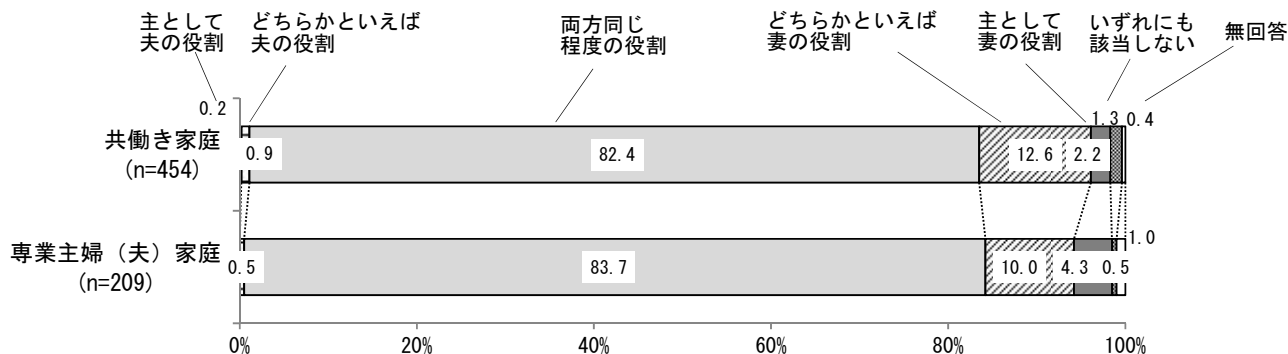
【図表 3-1-3 子どもの教育としつけ（地域別 2）】



<就労状況別>

共働き、専業主婦（夫）家庭とも「両方同じ程度の役割」は8割を超えており、大きな差はみられない。

【図表 3-1-4 子どもの教育としつけ（就労状況別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、「両方同じ程度の役割」は5.9ポイント上昇している。

【図表 3-1-5 子どもの教育としつけ（前回調査との比較）】

(単位:%)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.5	1.2	72.0	16.1	6.3	1.7	22.4
H16	0.7	0.6	80.0	11.7	4.4	1.3	16.1
H21	0.7	1.1	77.4	10.3	2.9	1.8	13.2
H26	0.4	0.6	83.3	10.0	2.7	1.0	12.7

※図表 3-1-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

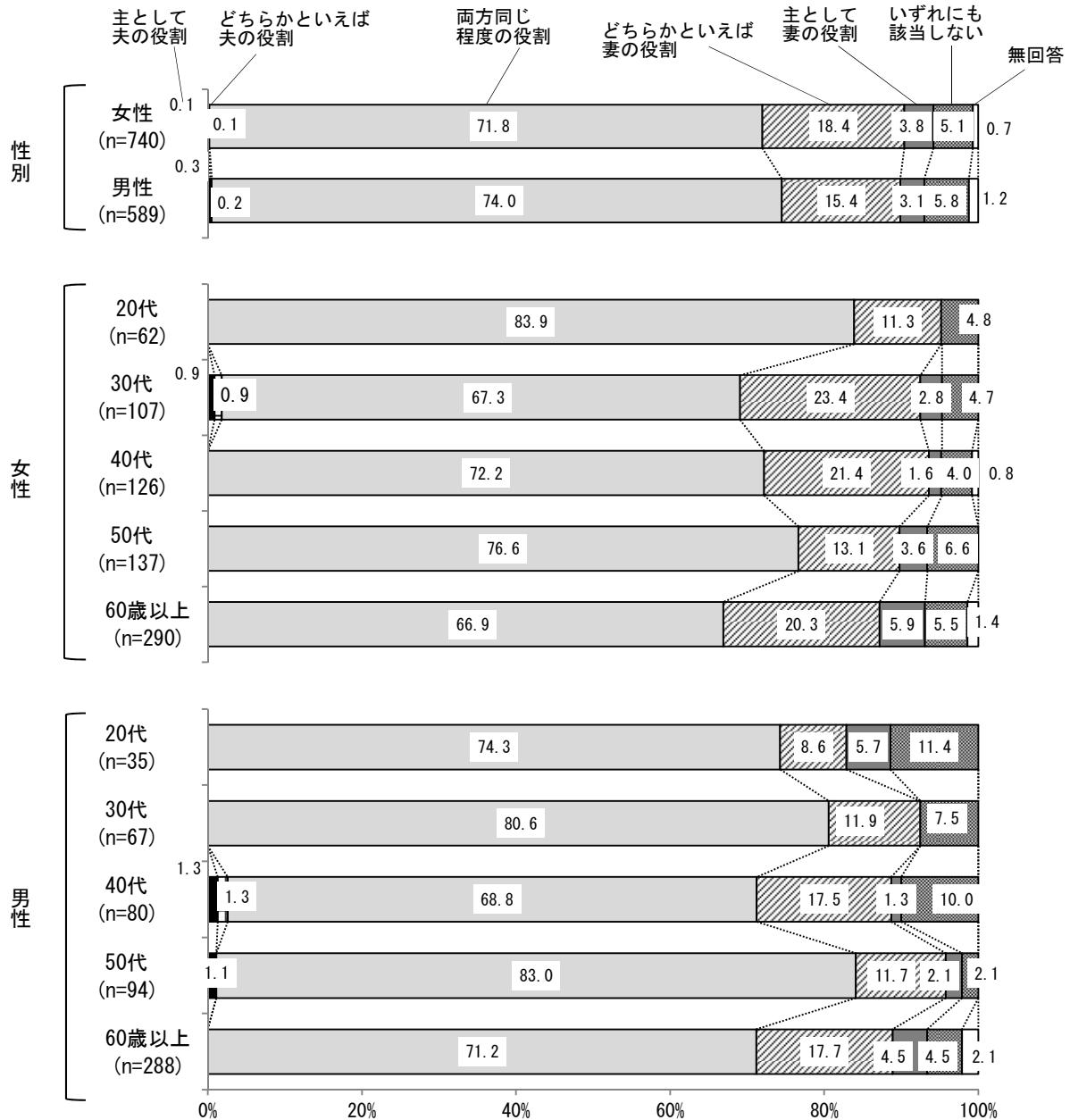
②「老親や病身者の介護や看護」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに「両方同じ程度の役割」が7割を超えている。

性・年齢別にみると、「両方同じ程度の役割」は女性20代、男性30代、50代で8割を超え高くなっている。

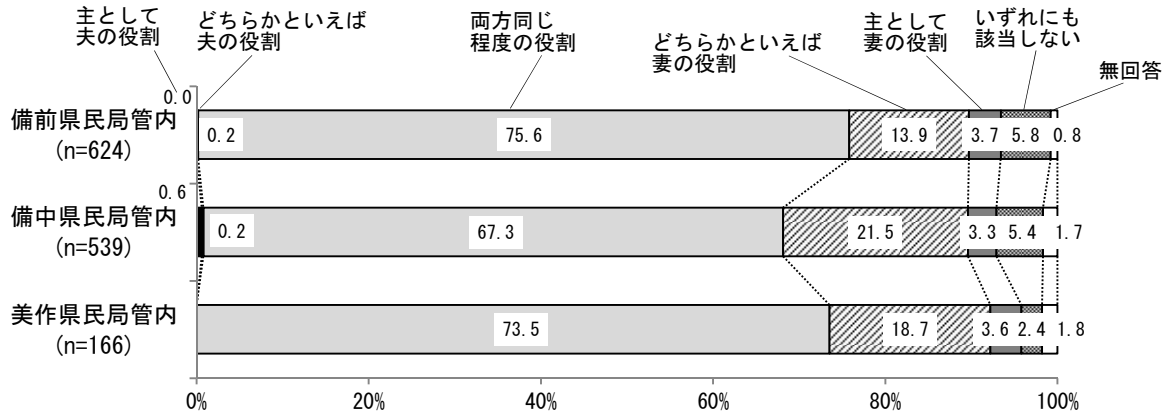
【図表 3-2-1 老親や病身者の介護や看護（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、「両方同じ程度の役割」は7割前後となっており、大きな差はみられない。

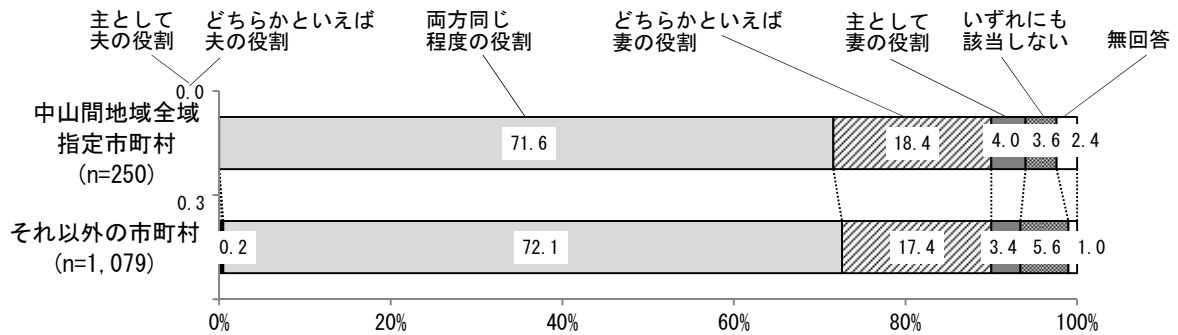
【図表 3-2-2 老親や病身者の介護や看護（地域別 1）】



<地域別 2>

いずれの地域も、「両方同じ程度の役割」は7割程度となっており、大きな差はみられない。

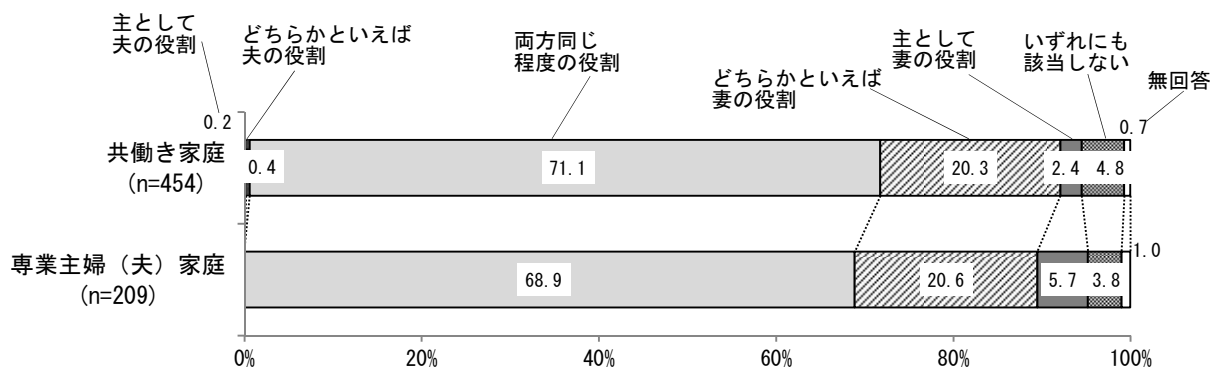
【図表 3-2-3 老親や病身者の介護や看護（地域別 2）】



<就労状況別>

「両方同じ程度の役割」は共働き、専業主婦（夫）家庭ともに7割程度を占めている。

【図表 3-2-4 老親や病身者の介護や看護（就労状況別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、「両方同じ程度の役割」は5.5ポイント上昇している。

【図表 3-2-5 老親や病身者の介護や看護（前回調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.2	0.2	51.1	29.2	12.1	0.4	41.3
H16	0.2	0.2	61.3	23.5	7.5	0.4	31.0
H21	0.3	0.5	66.6	17.7	4.6	0.8	22.3
H26	0.2	0.1	72.1	17.3	3.5	0.4	20.9

※図表 3-2-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

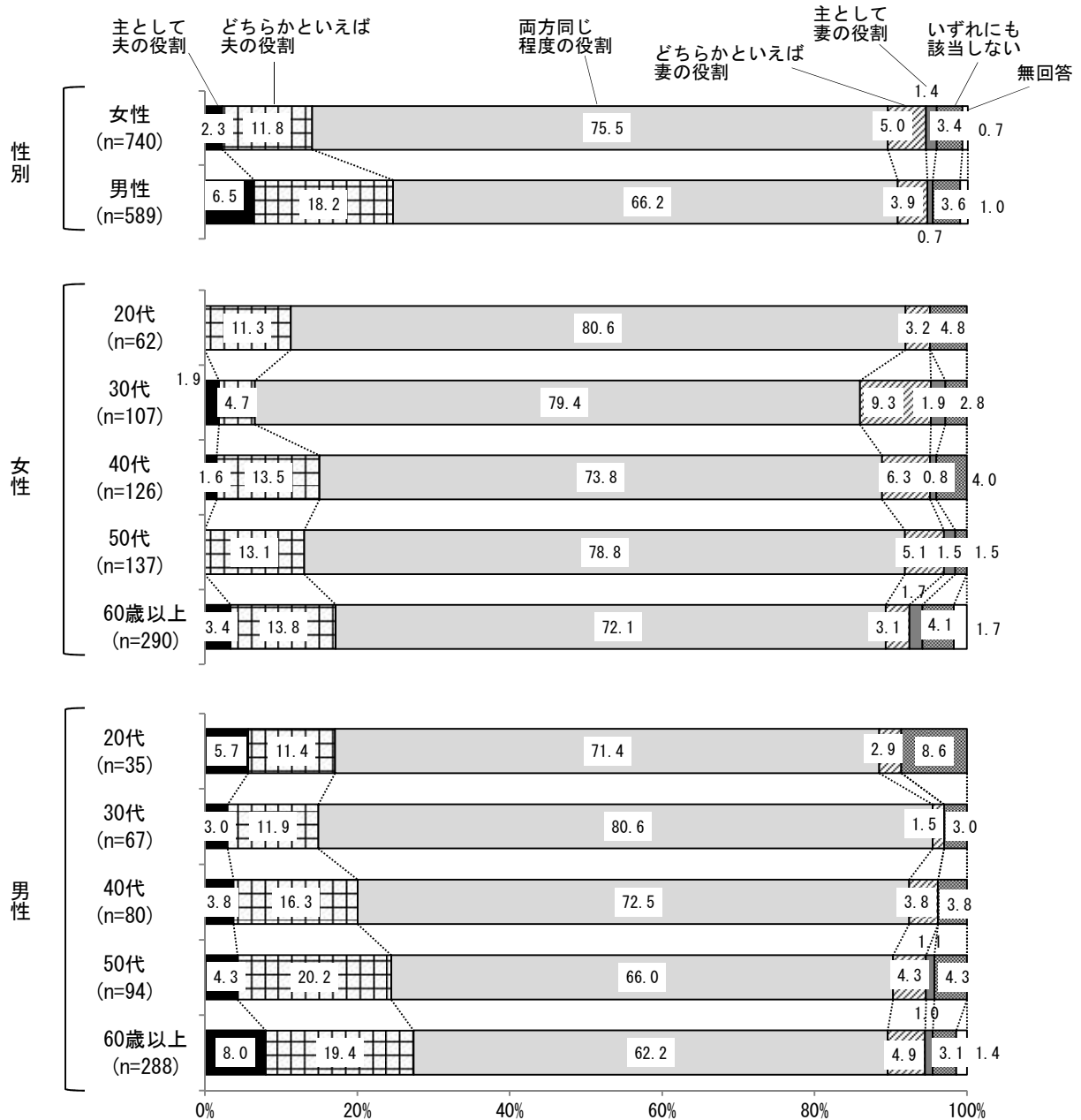
③ 「地域活動への参加」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『夫の役割』は、男性（24.7%）が女性（14.1%）を10.6ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、女性は、年齢が上がるにつれて「両方同じ程度の役割」の割合が低くなる傾向にある。

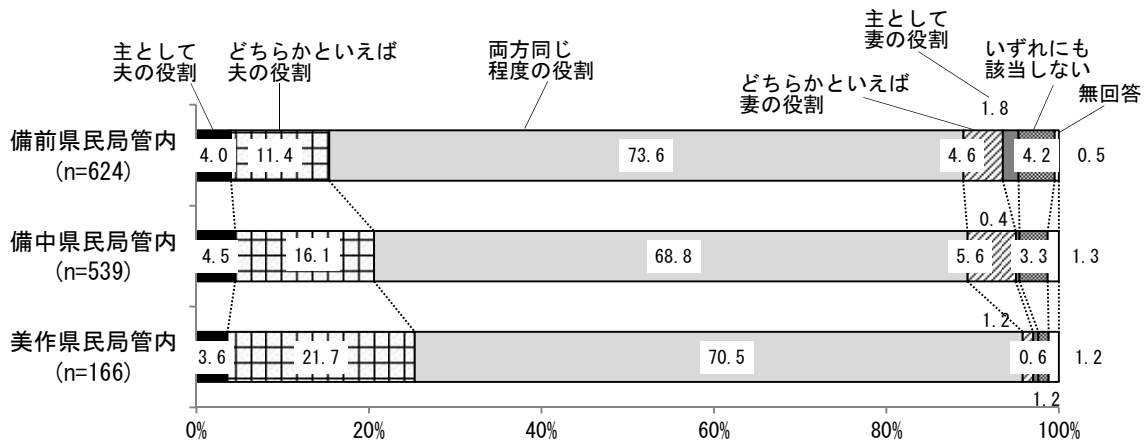
【図表 3-3-1 地域活動への参加（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

『夫の役割』は美作県民局管内（25.3%）が最も高く、備前県民局管内（15.4%）が最も低くなっており、9.9ポイントの差がある。

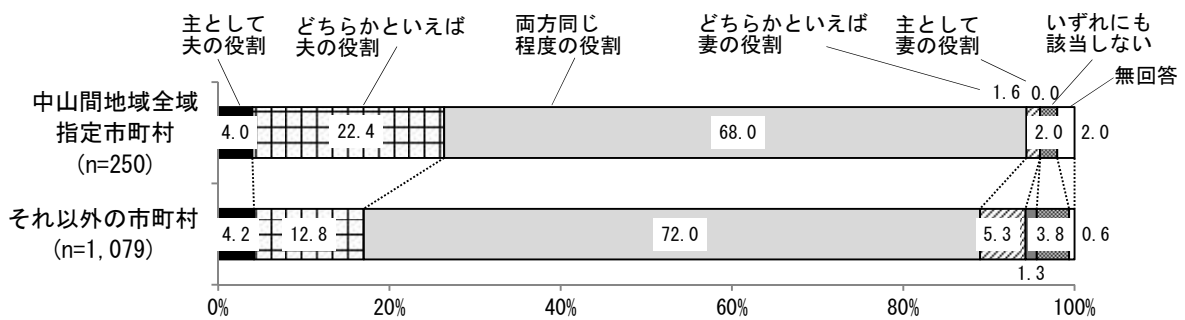
【図表 3-3-2 地域活動への参加（地域別 1）】



<地域別 2>

『夫の役割』は中山間地域全域指定市町村（26.4%）がそれ以外の市町村（17.0%）を9.4ポイント上回っている。

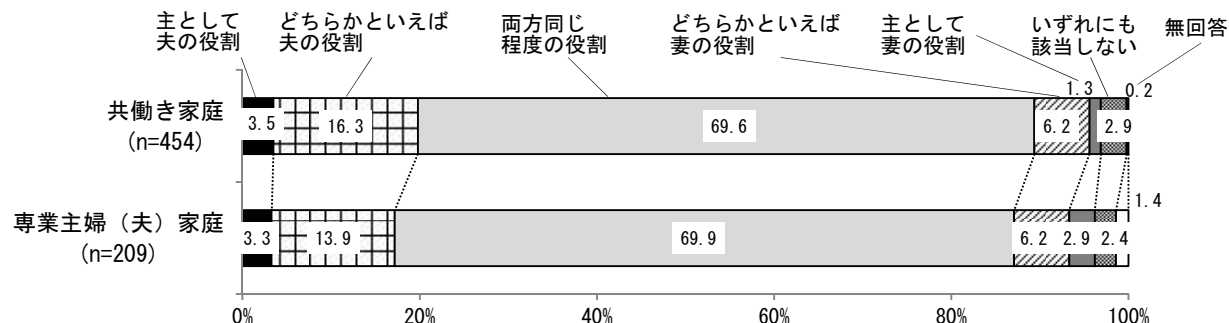
【図表 3-3-3 地域活動への参加（地域別 2）】



<就労状況別>

「両方同じ程度の役割」は共働き家庭、専業主婦（夫）家庭ともに同程度である。

【図表 3-3-4 地域活動への参加（就労状況別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『夫の役割』、『妻の役割』、「両方同じ程度の役割」の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 3-3-5 地域活動への参加（前回調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	4.0	16.2	62.5	8.9	3.5	20.2	12.4
H16	4.1	12.8	68.2	7.2	2.9	16.9	10.1
H21	3.2	15.1	66.2	4.7	1.3	18.3	6.0
H26	4.5	14.6	70.9	4.5	1.0	19.1	5.5

※図表 3-3-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

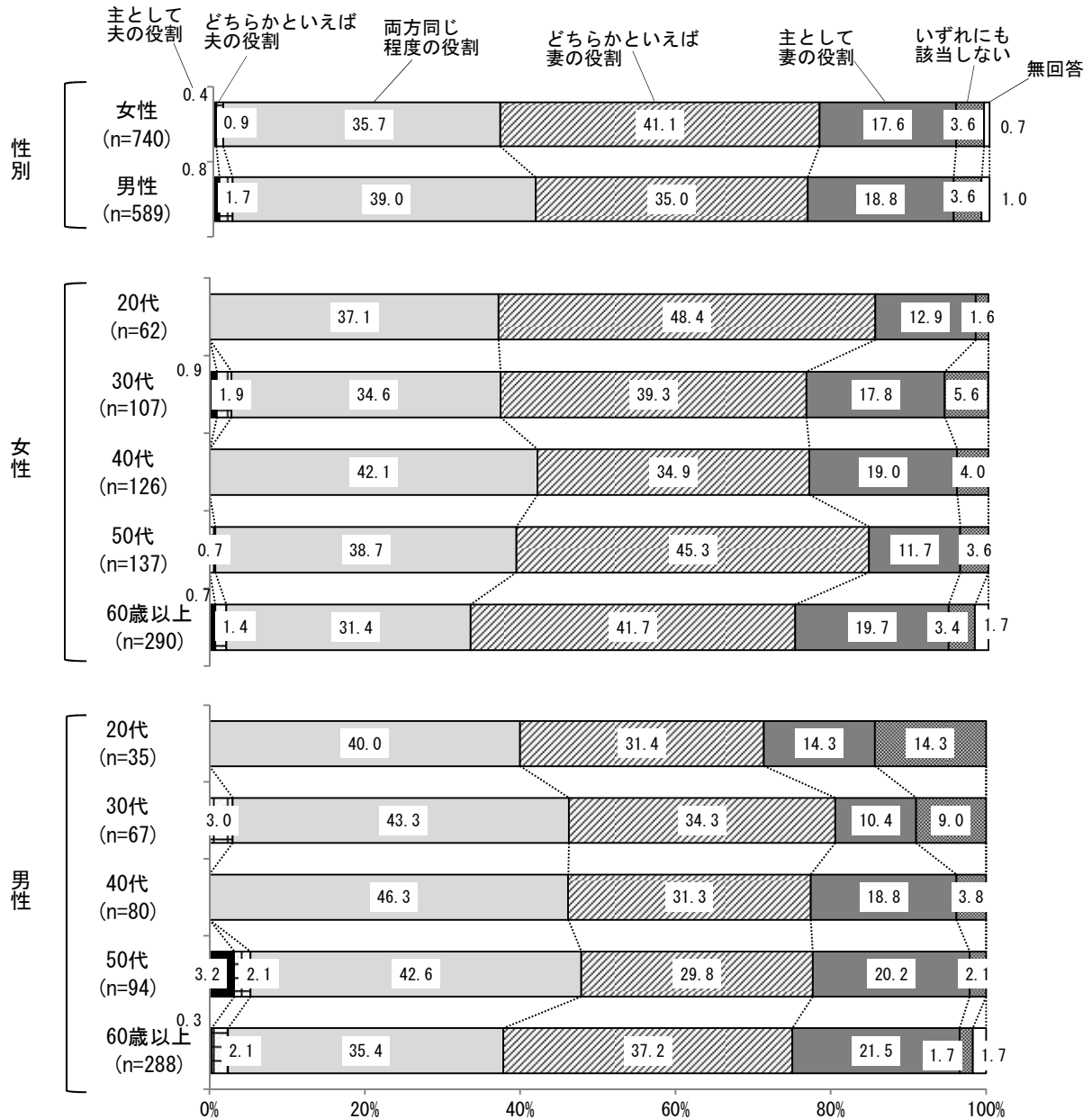
④ 「日々の家計の管理をする」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『妻の役割』は男女ともに5割を超えている。

性・年齢別にみると、『妻の役割』は男性20代、30代を除き、5割を超えている。

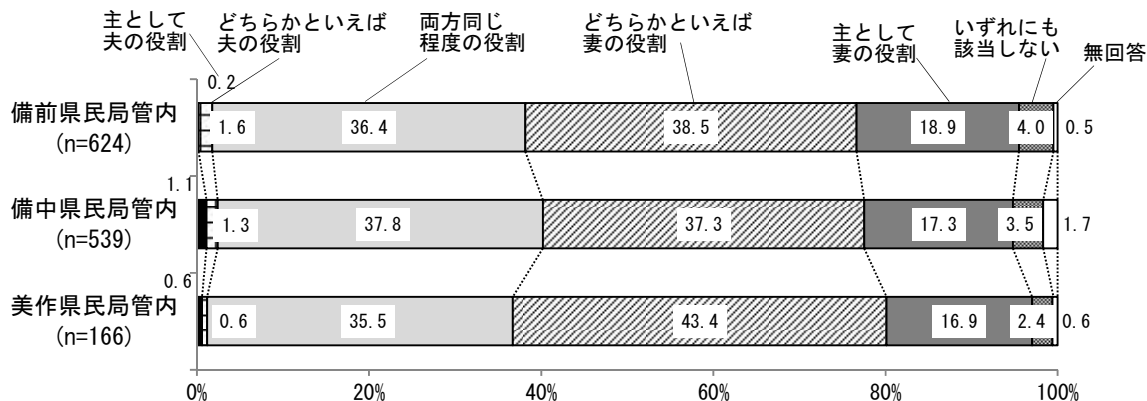
【図表 3-4-1 日々の家計の管理をする（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『妻の役割』は6割前後となっており、大きな差はみられない。

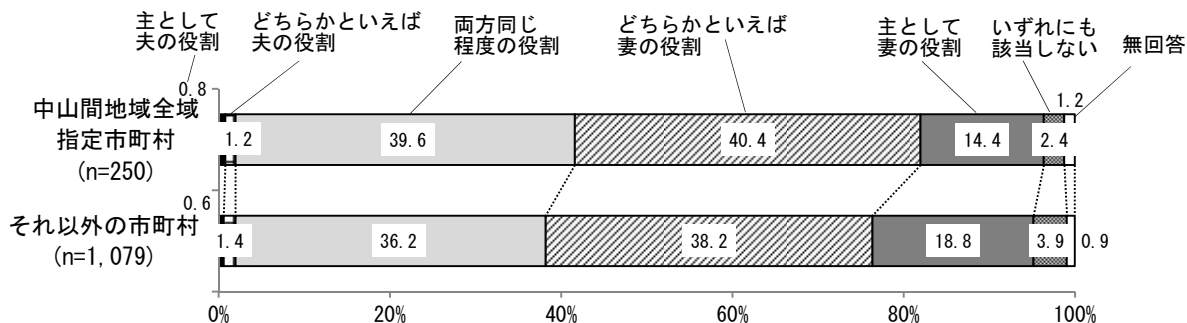
【図表 3-4-2 日々の家計の管理をする（地域別 1）】



<地域別 2>

いずれの地域も、『妻の役割』は5割を超えており、大きな差はみられない。

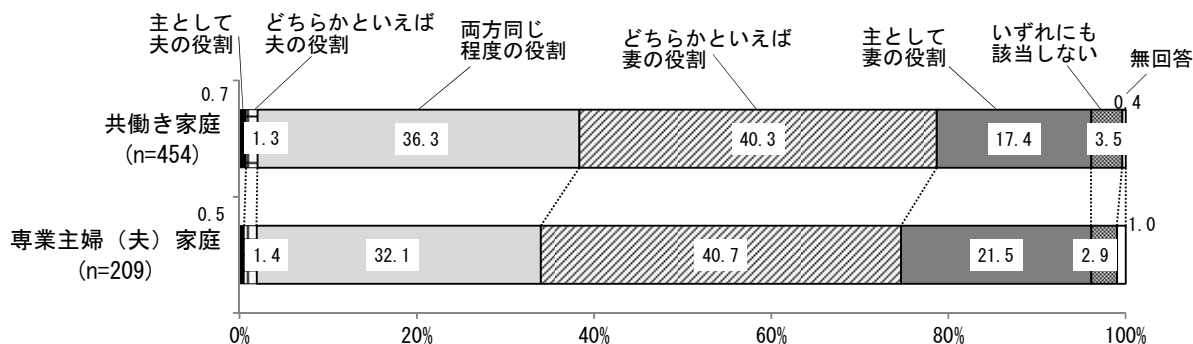
【図表 3-4-3 日々の家計の管理をする（地域別 2）】



<就労状況別>

共働き家庭、専業主婦（夫）家庭に関わらず、『妻の役割』は6割程度となっており、大きな差はみられない。

【図表 3-4-4 日々の家計の管理をする（就労状況別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、「両方同じ程度の役割」は6.7ポイント上昇している。

【図表 3-4-5 日々の家計の管理をする（前回調査との比較）】

(単位:%)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.8	0.9	18.6	47.2	28.8	1.7	76.0
H16	0.7	1.5	24.6	45.1	24.0	2.2	69.1
H21	1.0	1.3	29.9	38.1	20.8	2.3	58.9
H26	0.6	1.4	36.6	38.5	18.2	2.0	56.7

※図表 3-4-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

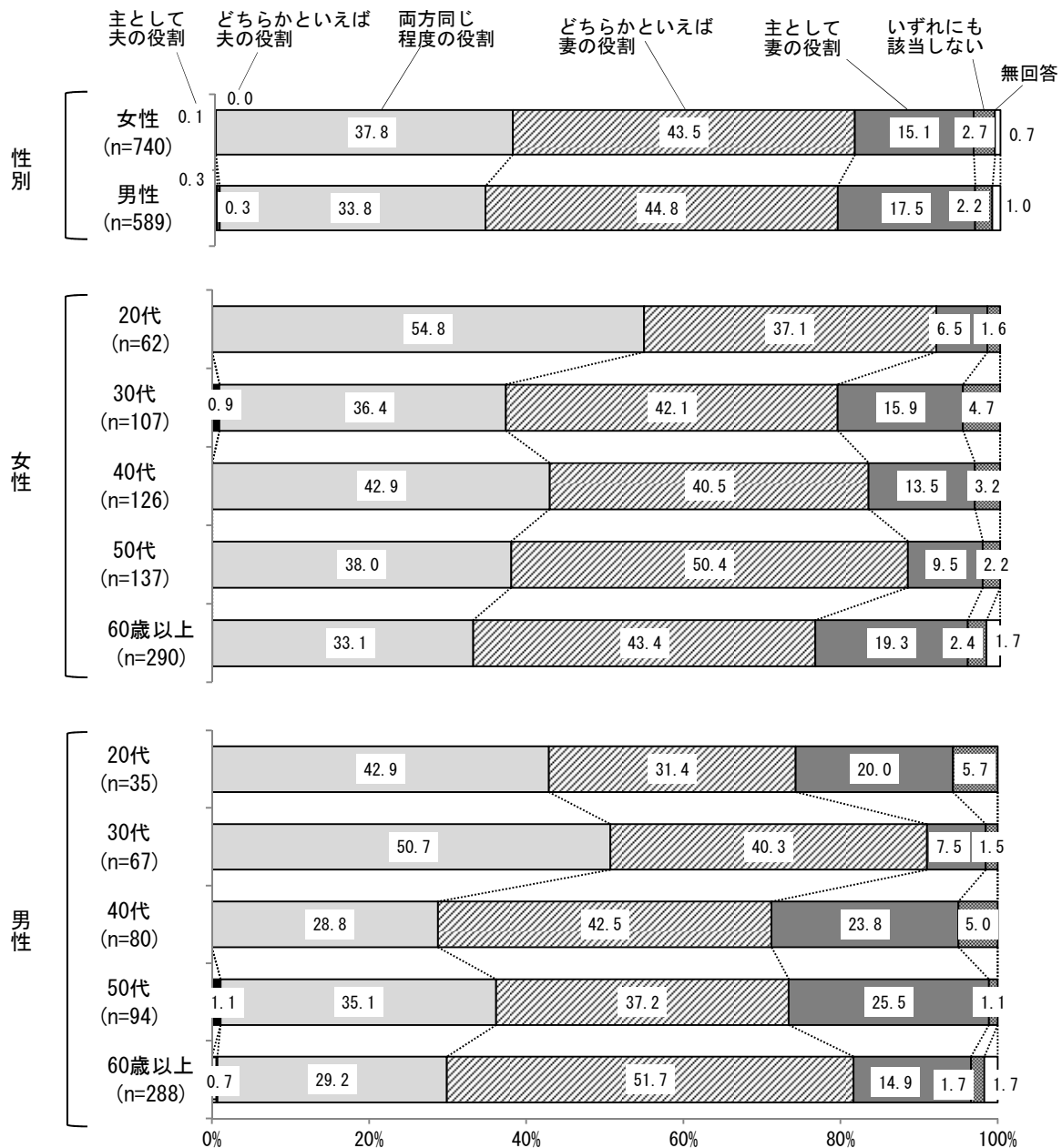
⑤ 「日常の家事」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『妻の役割』は6割前後となっている。

性・年齢別にみると、女性20代、40代、男性20代、30代を除き、すべての年代で『妻の役割』が6割前後となっている。

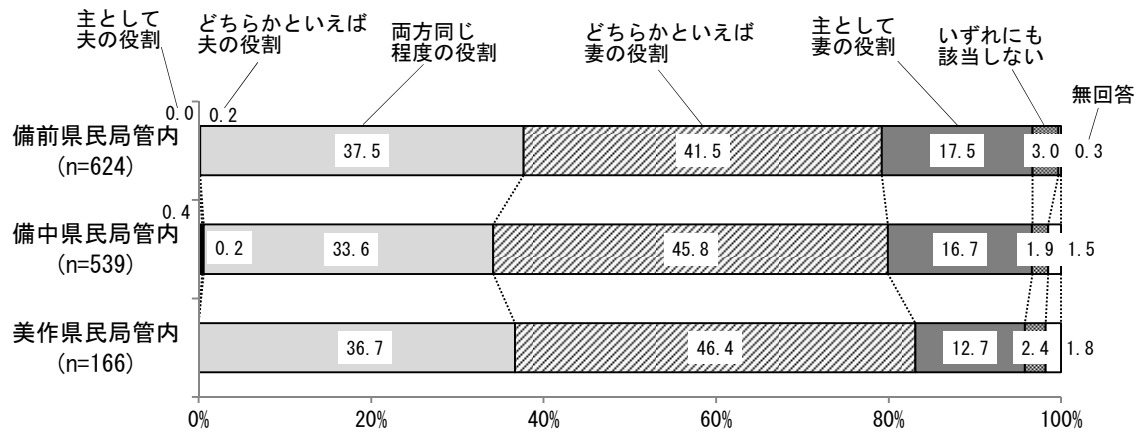
【図表 3-5-1 日常の家事（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『妻の役割』は6割前後となっており、大きな差はみられない。

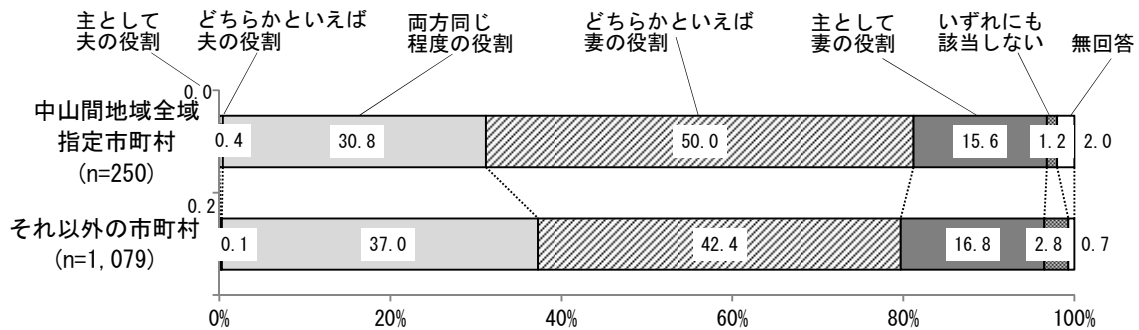
【図表 3-5-2 日常の家事（地域別 1）】



<地域別 2>

『妻の役割』は中山間地域全域指定市町村 (65.6%) がそれ以外の市町村 (59.2%) を 6.4 ポイント上回っている。

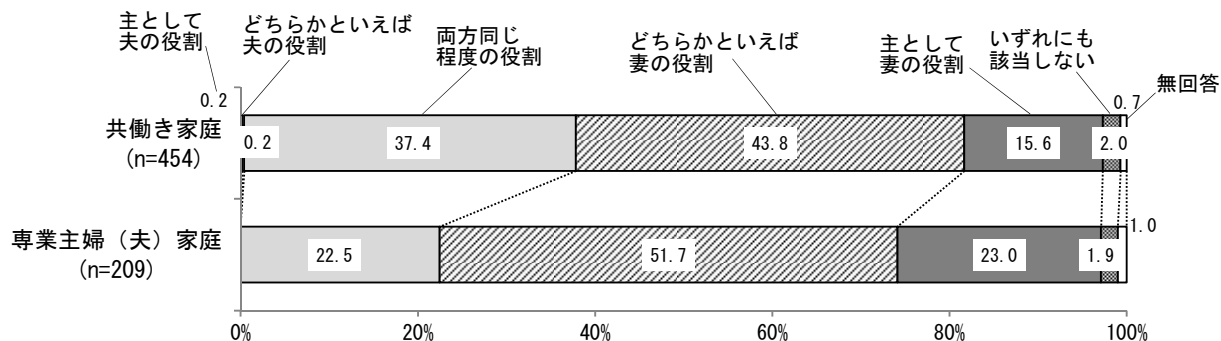
【図表 3-5-3 日常の家事（地域別 2）】



<就労状況別>

専業主婦（夫）家庭では『妻の役割』は74.7%、共働き家庭では59.4%となり、専業主婦（夫）家庭が15.3%上回っている。一方、「両方同じ程度の役割」は、共働き家庭が専業主婦（夫）家庭を14.9ポイント上回っている。

【図表 3-5-4 日常の家事（就労状況別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、「両方同じ程度の役割」は8.4ポイント上昇している。

【図表 3-5-5 日常の家事（前回調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.1	0.1	16.7	45.8	33.4	0.2	79.2
H16	0.1	0.2	22.8	45.4	26.4	0.3	71.8
H21	0.3	0.3	27.3	43.6	19.7	0.6	63.3
H26	0.2	0.1	35.7	43.5	16.9	0.4	60.4

※図表 3-5-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

⑥ 「育児（乳幼児の世話）」

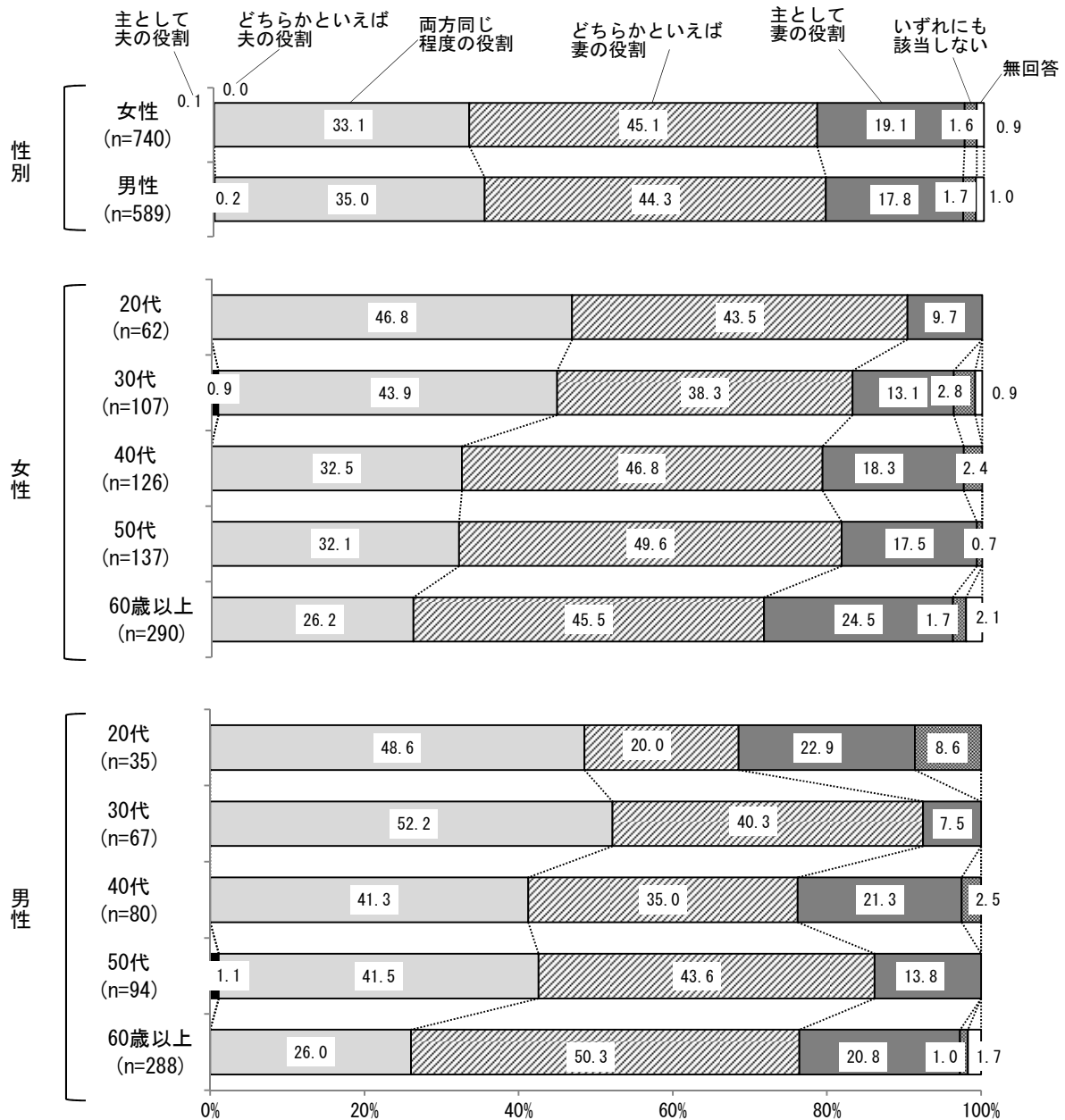
<性別、性・年齢別>

性別にみると、男女ともに『妻の役割』は6割を超えている。

性・年齢別にみると、女性は年齢が上がるにつれて「両方同じ程度の役割」の割合が低くなっている。

男性は年齢が上がるにつれて『妻の役割』の割合が高くなっている。

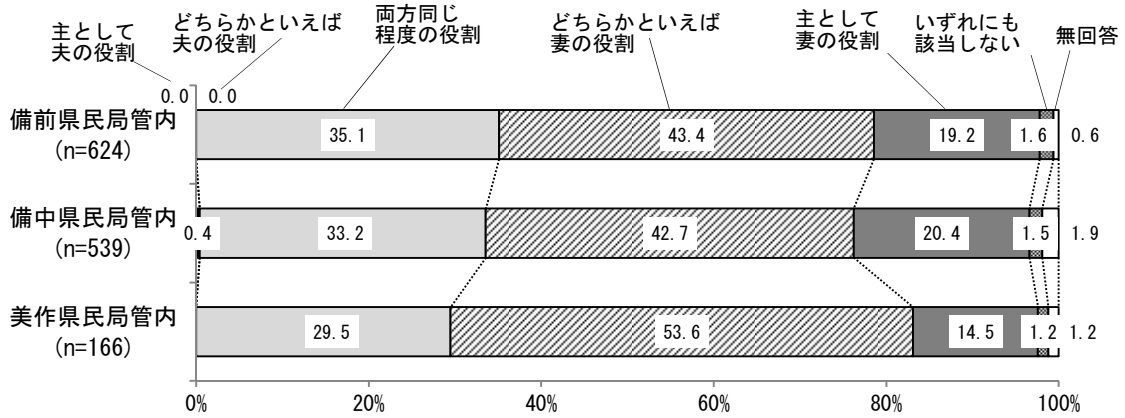
【図表 3-6-1 育児（乳幼児の世話）（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『妻の役割』は6割を超えている。美作県民局管内は『妻の役割』が他の地域と比べ、高くなっている。

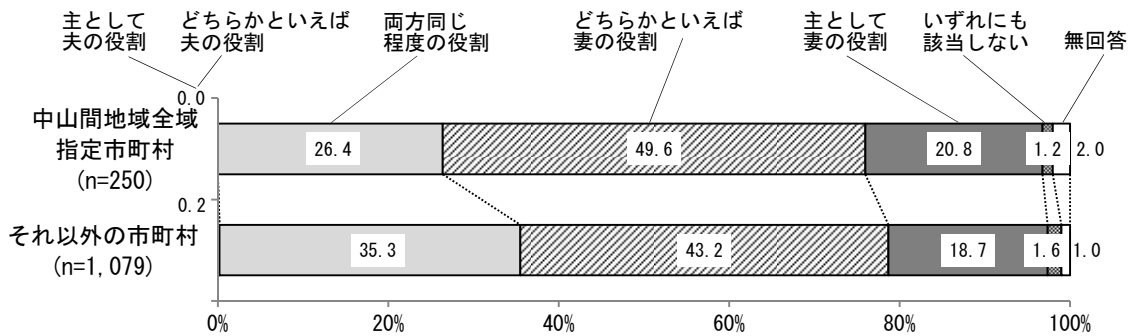
【図表 3-6-2 育児（乳幼児の世話）（地域別 1）】



<地域別 2>

『妻の役割』は中山間地域全域指定市町村(70.4%)がそれ以外の市町村(61.9%)を8.5ポイント上回っている。

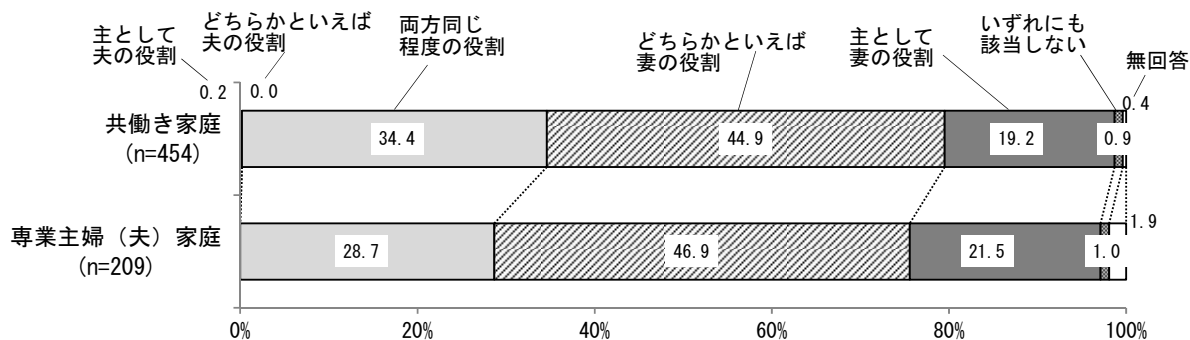
【図表 3-6-3 育児（乳幼児の世話）（地域別 2）】



<就労状況別>

共働き家庭では「両方同じ程度の役割」は34.4%、専業主婦（夫）家庭では28.7%となり、共働き家庭が5.7ポイント上回っている。また、『妻の役割』は共働き家庭、専業主婦（夫）家庭ともに6割を超えている。

【図表 3-6-4 育児（乳幼児の世話）（就労状況別）】



<前回調査との比較>

H21年調査と比べると、『夫の役割』、『妻の役割』、「両方同じ程度の役割」の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 3-6-5 育児（乳幼児の世話）（前回調査との比較）】

(単位: %)

	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	0.1	0.1	20.8	42.6	32.1	0.2	74.7
H16	0.0	0.2	35.4	40.0	20.9	0.2	60.9
H21	0.3	0.3	29.5	41.7	20.3	0.5	62.1
H26	0.1	0.0	33.5	44.4	18.9	0.1	63.3

※図表 3-6-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

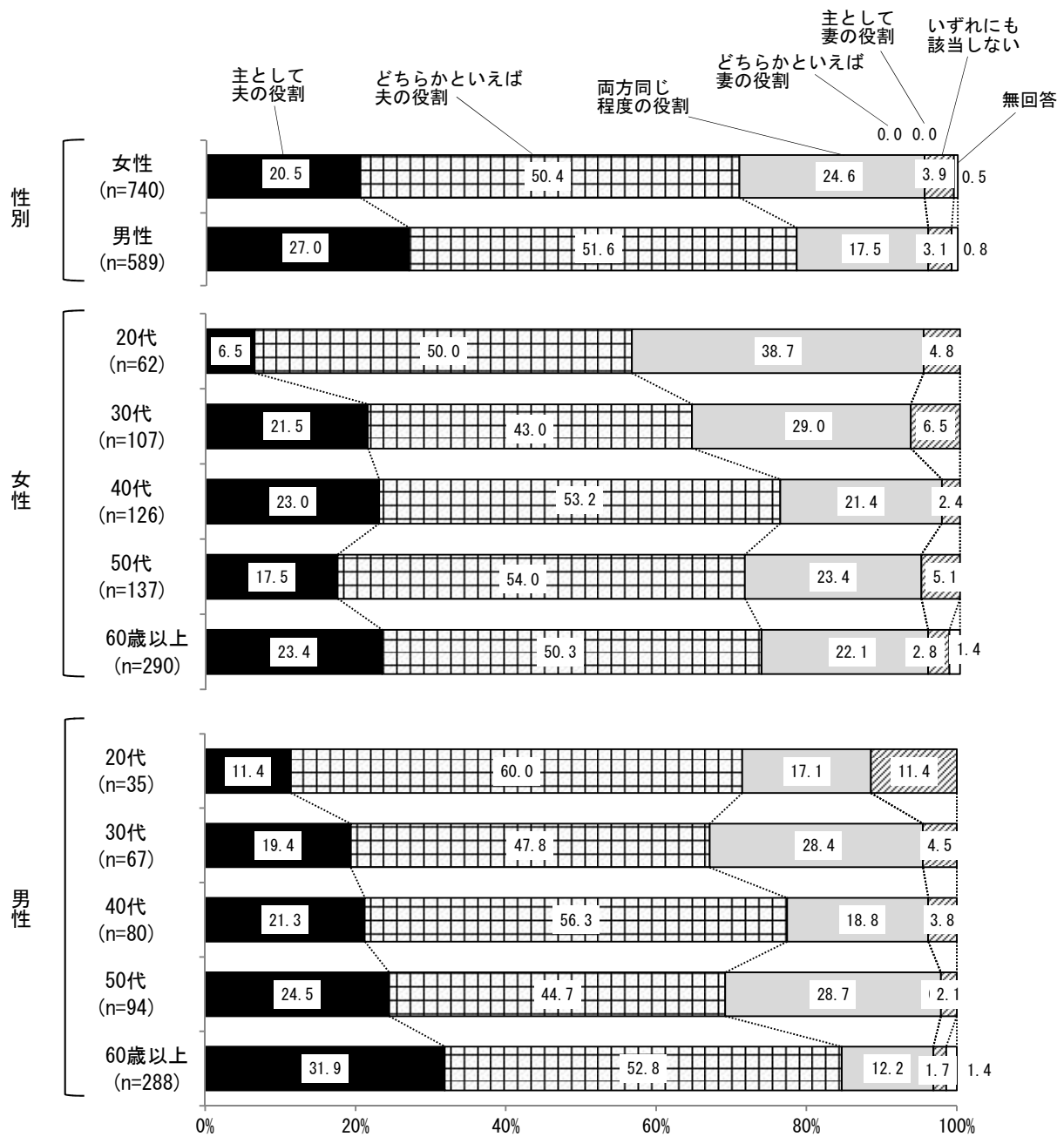
⑦「生活費を稼ぐ」

<性別、性・年齢別>

性別にみると、『夫の役割』は男性（78.6%）が女性（70.9%）を7.7ポイント上回っている。「両方同じ程度の役割」は、女性（24.6%）が男性（17.5%）を7.1ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、『夫の役割』は女性20代、30代を除き、7割程度となっているが、女性20代は他の年代に比べ、『夫の役割』が低く、「両方同じ程度の役割」が4割と高くなっている。

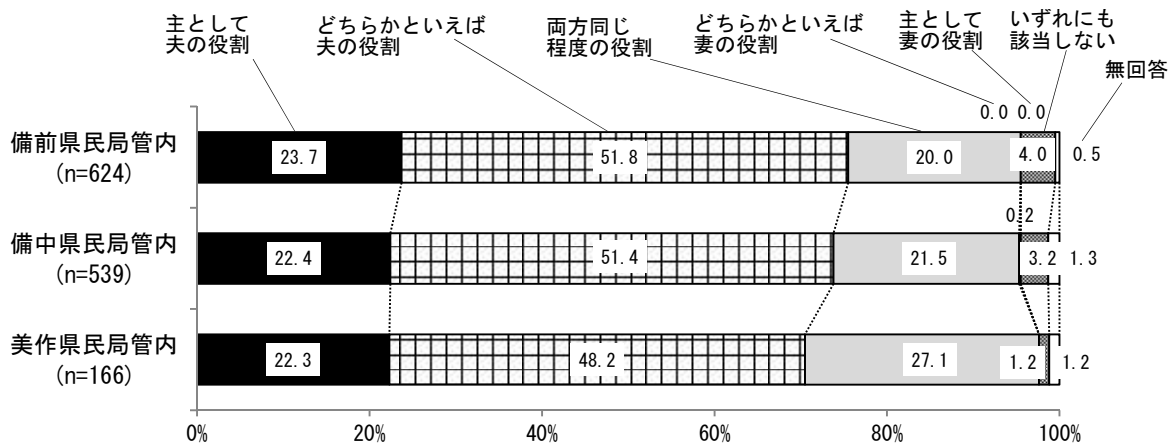
【図表 3-7-1 生活費を稼ぐ（性別、性・年齢別）】



<地域別 1>

すべての地域で、『夫の役割』は7割を超えており、大きな差はみられない。

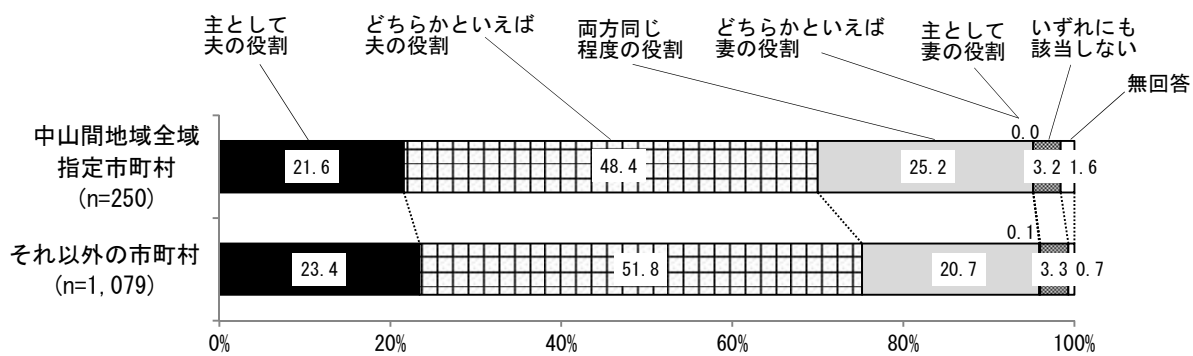
【図表 3-7-2 生活費を稼ぐ（地域別 1）】



<地域別 2>

『夫の役割』は中山間地域全域指定市町村（70.0%）がそれ以外の市町村（75.2%）を5.2ポイント下回っている。

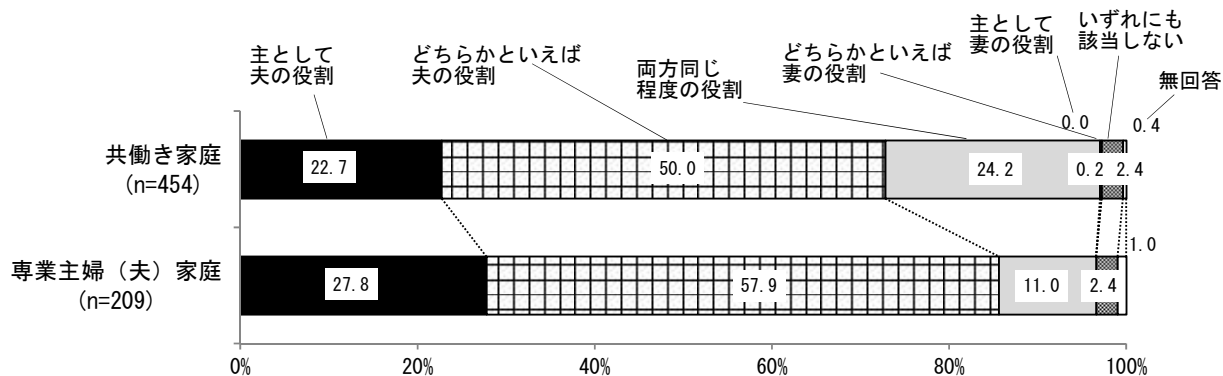
【図表 3-7-3 生活費を稼ぐ（地域別 2）】



＜就労状況別＞

共働き家庭と専業主婦（夫）家庭を比べると、『夫の役割』は専業主婦（夫）家庭（85.7%）が共働き家庭（72.7%）を13.0ポイント上回っている。

【図表 3-7-4 生活費を稼ぐ（就労状況別）】



＜前回調査との比較＞

H21年調査と比べると、『夫の役割』、『妻の役割』、『両方同じ程度の役割』の割合はほぼ横ばいで、大きな変化はみられない。

【図表 3-7-5 生活費を稼ぐ（前回調査との比較）】

（単位：%）

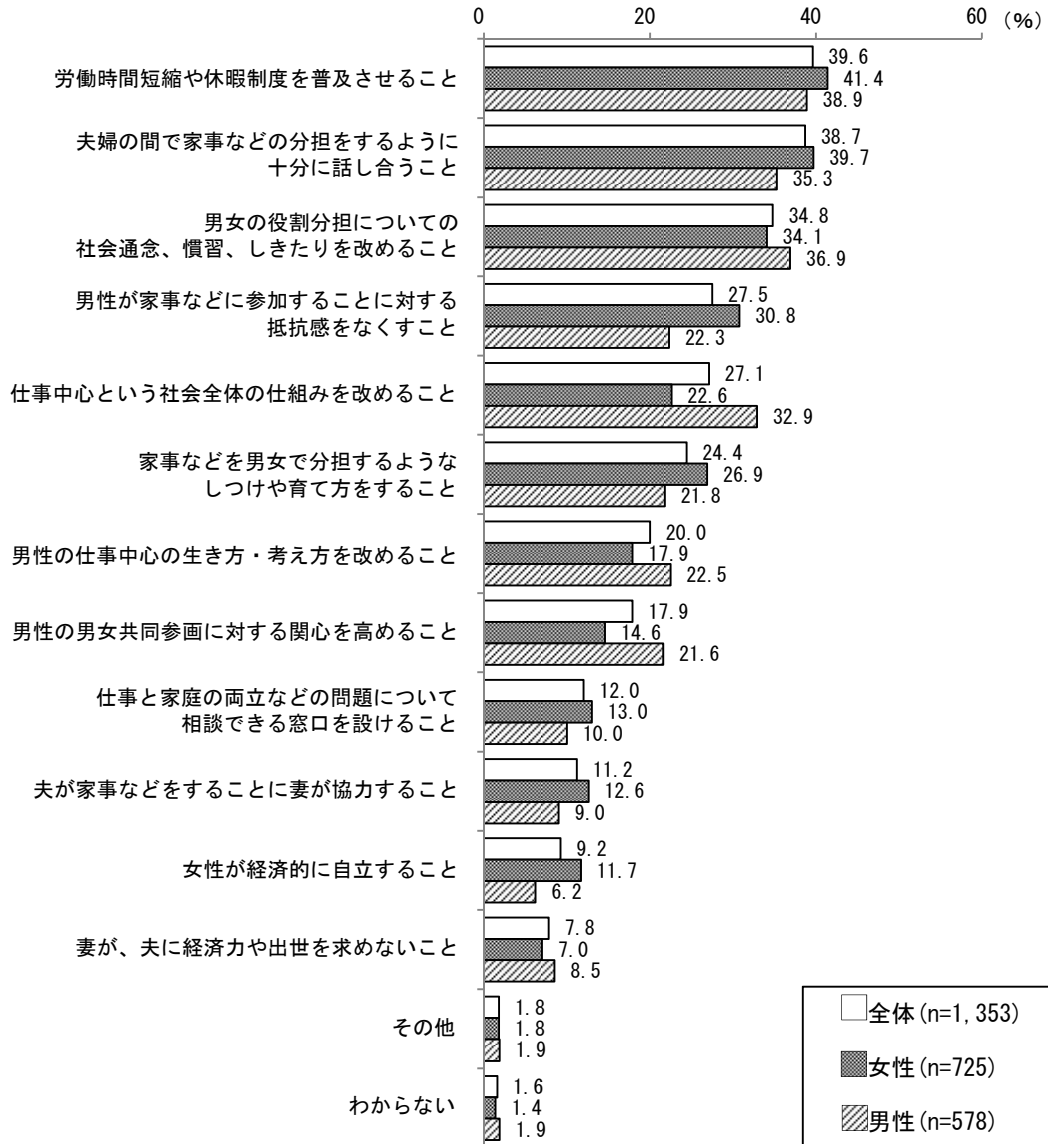
	主として夫の役割	どちらかといえば夫の役割	両方同じ程度の役割	どちらかといえば妻の役割	主として妻の役割	夫の役割計	妻の役割計
H12	41.7	44.1	10.9	0.2	0.1	85.8	0.3
H16	31.6	49.1	14.4	1.4	0.1	80.7	1.5
H21	29.6	44.5	17.0	0.1	0.0	74.1	0.1
H26	23.3	51.1	21.1	0.1	0.0	74.4	0.1

※図表 3-7-5 は前回調査と同様に、夫の役割計、妻の役割計は「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の件数の合計を回答者の総数で割って集計している。そのため、「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」、「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の割合の合計と一致しない場合がある。

(4) 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

問4 今後、男女が共に家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(○印は3つまで)

【図表 4-1 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと】



◆「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」などが上位に男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なことについて、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が39.6%と最も高く、次いで「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」(38.7%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(34.8%)、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」(27.5%)、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(27.1%)などの順となっている。

性別にみると、男女ともに「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(女性:41.4%、男性:38.9%)が最も高くなっている。また、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」(女性:30.8%、男性:22.3%)、「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする事」(女性:26.9%、男性:21.8%)、「女性が経済的に自立すること」(女性:11.7%、男性:6.2%)などは女性が男性を大きく上回っている。一方、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(男性:32.9%、女性:22.6%)、「男性の男女共同参画に対する関心を高めること」(男性:21.6%、女性:14.6%)などは男性が女性を大きく上回っている。

<性・年齢別>

性・年齢別にみると、男女ともに20代から40代は「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」、女性50代、60代は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が最も高くなっている。また、女性20代は「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が7割程度と非常に高くなっている。

【図表 4-2 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと(性・年齢別)】

(単位:%)

		1位		2位		3位	
女性	20代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	70.5	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	45.9	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	36.1
	30代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	54.3	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	35.2	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	28.6
	40代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	46.0	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	42.1	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	31.7
	50代	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	41.9	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	39.0	家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をする事	36.0
	60歳以上	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	46.6	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	37.6	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	33.3
男性	20代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	55.9	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと		32.4	
	30代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	58.2	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	53.7	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	28.4
	40代	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	42.3	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	35.9	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	29.5
	50代	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	44.1	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	39.8	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	34.4
	60歳以上	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	41.5	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	40.8	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	33.0

<地域別 1>

備前県民局管内、美作県民局管内は、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が最も高く、備中県民局管内は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」が最も高くなっている。

【図表 4-3 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（地域別 1）】

(単位:%)

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	40.3	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	41.6	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	38.4
2位	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	36.8	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	40.5	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	36.6
3位	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	35.2	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	33.4	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	35.4

<地域別 2>

いずれの地域も、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が最も高く、次いで「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」の順となっている。

【図表 4-4 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（地域別 2）】

(単位:%)

	中山間地域全域指定市町村		それ以外の市町村	
1位	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	41.2	労働時間短縮や休暇制度を普及させること	39.9
2位	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	36.1	夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	39.1
3位	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	33.2	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	35.0

＜前回調査との比較＞

H21年調査と比べると、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」は前回2位から1位に上がり、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」は前回1位から2位に下がっている。

【図表 4-5 男女が共に家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（前回調査との比較）】

